

平成 28 年
埼玉県の人ロ動態概況
(確定数)

平成 29 年 10 月

埼玉県保健医療部保健医療政策課

目 次

1	人口動態の概況（平成 28 年 1 月～12 月）	1
2	各 論	2
(1)	出 生	2
(2)	死 亡	10
(3)	乳児死亡及び新生児死亡	26
(4)	自然増減	27
(5)	死 産	30
(6)	周産期死亡	31
(7)	婚 姻	32
(8)	離 婚	34
(9)	合計特殊出生率	35

巻末（統計資料）

第 1 表	人口動態の年次推移－埼玉県－	39
第 2 表	〃 ー全 国ー	41
第 3 表	人口動態総覧（対前年比較）－埼玉県－	43
第 4 表	〃 ー全 国ー	44
第 5 表	死因順位（1～10 位）別死亡数・死亡率（人口 10 万対）の対前年比較	45
第 6 表	死因簡単分類別死亡数・死亡率（人口 10 万対）の対前年比較	46
第 7 表	死亡数，性・年齢（5 歳階級）・死因（死因簡単分類）別	50
第 8 表	人口動態総覧（保健所・市区町村・二次保健医療圏別）	59
第 9 表	〃 （都道府県別）	63

埼玉県の人口動態概況（確定数）について

これは、厚生労働省が平成 28 年 1 月から平成 28 年 12 月までの人口動態調査票を集計したものを年計として公表するものです。

統計表の表章記号の規約

—	計数のない場合
…	計数不明の場合又は計数を表章することが不適当な場合
・	統計項目のあり得ない場合
0.0	数値の微小（0.05 未満）の場合
△	減を表す場合

注：なお、掲載の数値は四捨五入してあるので、内訳の合計が「総数」に合わない場合がある。

○ 厚生労働省ホームページにおいて、人口動態統計の調査結果を閲覧できる。

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1.html>

<二次保健医療圏及び保健所>

この概況では以下の二次保健医療圏及び保健所で集計しました。

二次保健医療圏		圏域内保健所	圏域内市町村
南部保健医療圏		川口保健所	川口市・蕨市・戸田市
南西部保健医療圏		朝霞保健所	朝霞市・志木市・和光市・新座市・富士見市・ふじみ野市・三芳町
東部保健医療圏			下記市町
副次圏	東部（北）保健医療圏	春日部保健所	春日部市・松伏町
		越谷市保健所	越谷市
	東部（南）保健医療圏	草加保健所	草加市・八潮市・三郷市・吉川市
さいたま保健医療圏		さいたま市保健所	さいたま市
県央保健医療圏		鴻巣保健所	鴻巣市・上尾市・桶川市・北本市・伊奈町
川越比企保健医療圏			下記市町村
副次圏	川越比企（北）保健医療圏	東松山保健所	東松山市・滑川町・嵐山町・小川町・川島町・吉見町・ときがわ町・東秩父村
		坂戸保健所	坂戸市・鶴ヶ島市・毛呂山町・越生町・鳩山町
	川越比企（南）保健医療圏	川越市保健所	川越市
西部保健医療圏		狭山保健所	所沢市・飯能市・狭山市・入間市・日高市
利根保健医療圏			下記市町
副次圏	利根（北）保健医療圏	加須保健所	行田市・加須市・羽生市
	利根（南）保健医療圏	幸手保健所	久喜市・蓮田市・幸手市・白岡市・宮代町・杉戸町
北部保健医療圏			下記市町
副次圏	北部（東）保健医療圏	熊谷保健所	熊谷市・深谷市・寄居町
	北部（西）保健医療圏	本庄保健所	本庄市・美里町・神川町・上里町
秩父保健医療圏		秩父保健所	秩父市・横瀬町・皆野町・長瀨町・小鹿野町

<用語の解説>

- 1 出産
出生に死産を加えたものをいう。
- 2 自然増減
出生数から死亡数を減じたものをいう。
- 3 乳児死亡
生後1年未満の死亡をいう。
- 4 新生児死亡
生後4週未満の死亡をいう。
- 5 早期新生児死亡
生後1週未満の死亡をいう。
- 6 死産
妊娠満12週（妊娠第4月）以後における死児の出産をいい、死児とは、出産後において心臓搏動、随意筋の運動及び呼吸のいずれも認めないものをいう。
- 7 周産期死亡
妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたものをいう。
- 8 妊産婦死亡
妊娠中又は妊娠終了後満42日未満（昭和53年までは「産後90日以内」、昭和54年から平成6年までは「分娩後42日以内」としている）の女性の死亡で、妊娠の期間及び部位には関係しないが、妊娠もしくはその管理に関連した又はそれらによって悪化したすべての原因によるものをいう。ただし、不慮又は偶発の原因によるものを除く。
- 9 合計特殊出生率
15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計した数値である。
その年次の年齢別出生状態を1人の女性の生涯に当てはめ、一生の間に生む子供の平均人数を理論的に表したものである。合計特殊出生率が2.07（人口置換水準）を割り込むと人口は減少する。

1 人口動態の概況（平成28年1月～12月）

（1）出生数 [減少]

出生数は54,447人で、前年と比べ1,630人減少し、出生率は人口千人に対し7.6で、前年と比べ0.2ポイント低下した。

（2）死亡数 [増加]

死亡数は63,466人で、前年と比べ901人増加し、死亡率は人口千人に対し8.9で、前年と比べ0.2ポイント上昇した。

（3）乳児死亡数 [増加]

乳児死亡数は118人で、前年と比べ7人増加し、乳児死亡率は出生千人に対し2.2で、前年と比べ0.2ポイント上昇した。

（4）自然増減数 [減少]

自然増減数は△9,019人で、前年と比べ2,531人減少し、自然増減率は人口千人に対し△1.3で、前年と比べ0.4ポイント低下した。

（5）死産数 [減少]

死産数は1,181胎で、前年と比べ169胎減少し、死産率は出産（出生＋死産）千人（胎）に対し21.2で、前年と比べ2.3ポイント低下した。

（6）周産期死亡数 [減少]

周産期死亡数は185人（胎）で、前年と比べ23人（胎）減少し、周産期死亡率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千人（胎）に対し3.4で、前年と比べ0.3ポイント低下した。

（7）婚姻件数 [減少]

婚姻件数は34,199組で、前年と比べ558組減少し、婚姻率は人口千人に対し4.8で、前年と比べ0.1ポイント低下した。

（8）離婚件数 [減少]

離婚件数は12,481組で、前年と比べ186組減少し、離婚率は人口千人に対し1.74で、前年と比べ0.03ポイント低下した。

（9）合計特殊出生率 [低下]

合計特殊出生率は1.37で、前年と比べ0.02ポイント低下した。

表－1 人口動態の概況（対前年比較）

埼玉県

	実数（人、胎、組）			率			平均発生間隔					
	平成28年	平成27年	対前年増減	平成28年	平成27年	対前年増減	平成28年			平成27年		
							時	分	秒	時	分	秒
出生	54 447	56 077	△ 1 630	7.6	7.8	△ 0.2	9	41		9	22	
死亡	63 466	62 565	901	8.9	8.7	0.2	8	18		8	24	
乳児死亡	118	111	7	2.2	2.0	0.2	74	26	26	78	55	8
新生児死亡	52	48	4	1.0	0.9	0.1	168	55	23	182	30	0
自然増減	△ 9 019	△ 6 488	△ 2 531	△ 1.3	△ 0.9	△ 0.4	…			…		
死産	1 181	1 350	△ 169	21.2	23.5	△ 2.3	7	26	16	6	29	20
自然死産	575	670	△ 95	10.3	11.7	△ 1.4	15	16	35	13	4	29
人工死産	606	680	△ 74	10.9	11.8	△ 0.9	14	29	42	12	52	56
周産期死亡	185	208	△ 23	3.4	3.7	△ 0.3	47	28	52	42	6	55
妊娠満22週以後の死産	145	175	△ 30	2.7	3.1	△ 0.4	60	34	46	50	3	26
早期新生児死亡	40	33	7	0.7	0.6	0.1	219	36	0	265	27	16
婚姻	34 199	34 757	△ 558	4.8	4.9	△ 0.1	15	25		15	7	
離婚	12 481	12 667	△ 186	1.74	1.77	△ 0.03	42	14		41	30	
	平成28年	平成27年	対前年増減									
合計特殊出生率	1.37	1.39	△ 0.02									

注：出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は人口千対、乳児死亡・新生児死亡・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生＋死産）千対、周産期死亡・妊娠満22歳以後の死産率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対である。

2 各 論

(1) 出 生

ア 出生数及び出生率

平成28年の出生数は54,447人で、前年の56,077人より1,630人減少した。

出生数を年次推移でみると、昭和48年の106,008人をピークに平成2年まで減少し続け、その後増加と減少を繰り返しながら長期的には減少傾向が続いている。近年では、平成25年に平成18年以降7年ぶりに増加したものの、その後は再び増減を繰り返している。（表－2）

出生率は人口千人に対し7.6で、前年より0.2ポイント低下した。全国も前年より0.2ポイント低下し、7.8であった。

出生率を年次推移でみると、第2次ベビーブームの昭和46年及び昭和47年の24.0以降低下を続け、平成2年に初めて10.0を割り9.9となった。その後平成8年まで10.0を上回る程度で推移していたが、平成9年に再び10.0を割って以降、平成16年には8.9と9.0を割り、直近では平成26年に7.8と8.0を割るなど、概ね低下傾向である。

出生率を全国と比較してみると、本県の出生率は平成3年以降、わずかながら全国を上回る状態であった。しかし、平成20年に全国を下回り、平成21年には同率となったものの、平成22年以降再び下回っている。（図－1）

なお、昭和41年にみられる出生率の低下は、丙午（ひのえうま）によるものである。

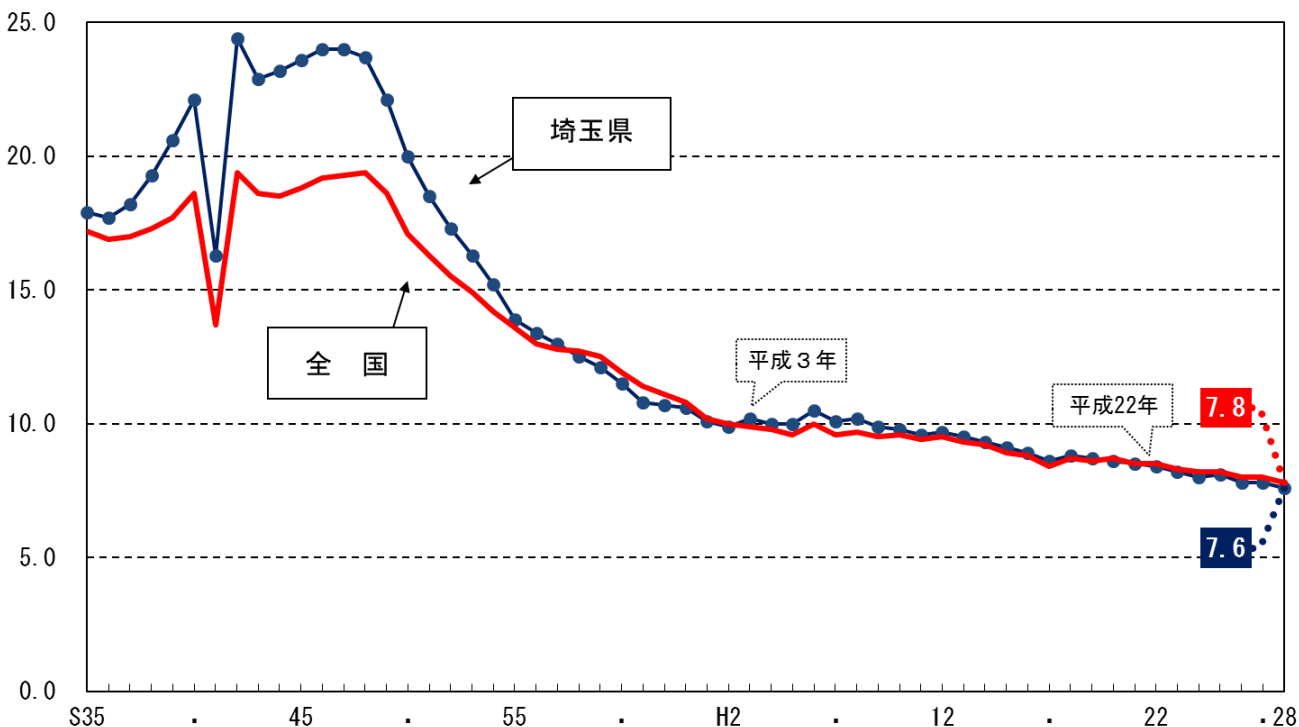
表－2 出生数及び出生率の年次推移

	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	26	27	28	
数	埼玉県	43 421	66 585	91 113	96 033	75 090	67 260	63 299	67 750	66 376	59 731	59 437	55 765	56 077	54 447
	全国	1 606 041	1 823 697	1 934 239	1 901 440	1 576 889	1 431 577	1 221 585	1 187 064	1 190 547	1 062 530	1 071 304	1 003 539	1 005 677	976 978
率	埼玉県	17.9	22.1	23.6	20.0	13.9	11.5	9.9	10.1	9.7	8.6	8.4	7.8	7.8	7.6
	全国	17.2	18.6	18.8	17.1	13.6	11.9	10.0	9.6	9.5	8.4	8.5	8.0	8.0	7.8

注：率は人口千対である。

図－1 出生率の年次推移（埼玉県・全国）

出生率（人口千対）



イ 都道府県別にみた出生率

都道府県別にみると、本県は、昭和49年から昭和52年までは、高率順で沖縄県に次いで第2位であった。しかし、昭和53年以降順位を落とし昭和61年には41位まで下がった。その後、平成7年には4位となったものの、平成25年以降は4年連続23位と、近年、横ばいの状況が続いている。
(表-3)

表-3 都道府県別にみた出生率

	S60			H2			7			12			17		
	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位
高率順	全 国	11.9		全 国	10.0		全 国	9.6		全 国	9.5		全 国	8.4	
	沖 縄	17.6	1	沖 縄	14.0	1	沖 縄	13.2	1	沖 縄	12.8	1	沖 縄	11.9	1
	福 島	13.3	2	滋 賀	11.2	2	愛 知	10.6	2	愛 知	10.8	2	滋 賀	9.5	2
	佐 賀	13.1	3	佐 賀	10.9	3	滋 賀	10.5	3	滋 賀	10.6	3	愛 知	9.4	3
	宮 城	12.9	4	福 島	10.8	4	埼 玉	10.1	4	大 阪	10.2	4	福 井	8.8	4
	宮 崎	12.9	5	愛 知	10.7	5	山 梨	10.1	5	佐 賀	10.0	5	大 阪	8.8	5
	鹿 児 島	12.7	6	長 崎	10.6	6	福 井	10.1	6	兵 庫	10.0	6	神 奈 川	8.8	6
	滋 賀	12.7	7	福 井	10.6	7	福 島	10.0	7	神 奈 川	9.9	7	栃 木	8.7	7
	長 崎	12.7	8	鹿 児 島	10.5	8	大 阪	10.0	8	岡 山	9.8	8	佐 賀	8.7	8
	栃 木	12.7	9	鳥 取	10.4	9	宮 崎	10.0	9	福 井	9.8	9	広 島	8.7	9
	熊 本	12.6	10	宮 城	10.4	10	神 奈 川	9.9	10	石 川	9.8	10	福 岡	8.7	10
	埼 玉	11.5	34	埼 玉	9.9	29				埼 玉	9.7	15	埼 玉	8.6	18
低率順	富 山	10.7	1	高 知	8.7	1	秋 田	8.2	1	秋 田	7.6	1	秋 田	6.7	1
	東 京	10.7	2	山 口	8.8	2	東 京	8.4	2	北 海 道	8.2	2	徳 島	7.3	2
	秋 田	10.9	3	東 京	8.9	3	高 知	8.5	3	高 知	8.4	3	青 森	7.3	3
	高 知	11.1	4	秋 田	9.0	4	山 口	8.6	4	東 京	8.5	4	北 海 道	7.4	4
	京 都	11.1	5	富 山	9.0	5	島 根	8.8	5	島 根	8.6	5	高 知	7.5	5
高率順	全 国	8.5		全 国	8.2		全 国	8.0		全 国	8.0		全 国	7.8	
	沖 縄	12.3	1	沖 縄	12.2	1	沖 縄	11.6	1	沖 縄	11.9	1	沖 縄	11.6	1
	愛 知	9.6	2	滋 賀	9.3	2	滋 賀	9.1	2	滋 賀	9.1	2	愛 知	8.8	2
	滋 賀	9.6	3	愛 知	9.2	3	福 岡	9.0	3	愛 知	9.0	3	福 岡	8.7	3
	福 岡	9.3	4	福 岡	9.1	4	愛 知	8.9	4	福 岡	9.0	4	滋 賀	8.7	4
	広 島	9.0	5	熊 本	8.9	5	熊 本	8.7	5	熊 本	8.8	5	東 京	8.5	5
	宮 崎	9.0	6	宮 崎	8.8	6	佐 賀	8.6	6	東 京	8.6	6	熊 本	8.4	6
	佐 賀	9.0	7	広 島	8.8	7	宮 崎	8.6	7	鹿 児 島	8.6	7	鹿 児 島	8.4	7
	熊 本	9.0	8	鹿 児 島	8.7	8	鹿 児 島	8.6	8	佐 賀	8.5	8	佐 賀	8.3	8
	鹿 児 島	8.9	9	佐 賀	8.7	9	広 島	8.5	9	広 島	8.4	9	宮 崎	8.2	9
	神 奈 川	8.8	10	東 京	8.5	10	東 京	8.5	10	宮 崎	8.4	10	岡 山	8.2	10
	埼 玉	8.4	22	埼 玉	8.1	23	埼 玉	7.8	23	埼 玉	7.8	23	埼 玉	7.6	23
低率順	秋 田	6.2	1	秋 田	5.9	1	秋 田	5.8	1	秋 田	5.7	1	秋 田	5.6	1
	青 森	7.1	2	青 森	6.8	2	青 森	6.7	2	青 森	6.6	2	北 海 道	6.6	2
	高 知	7.2	3	北 海 道	7.1	3	高 知	6.8	3	北 海 道	6.8	3	岩 手	6.6	3
	北 海 道	7.3	4	高 知	7.1	4	岩 手	6.9	4	岩 手	6.9	4	高 知	6.7	4
	岩 手	7.4	5	岩 手	7.2	5	北 海 道	6.9	5	高 知	7.0	5	青 森	6.7	5

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮している。

ウ 市町村別にみた出生率

市町村別にみると、高率順では、戸田市（10.9）、和光市（10.6）、朝霞市（10.0）の順である。

また、低率順では、鳩山町（3.0）、小鹿野町（3.5）、川島町（3.7）の順である。（表－4、図－2）

表－4 市町村別にみた出生率（高率順）

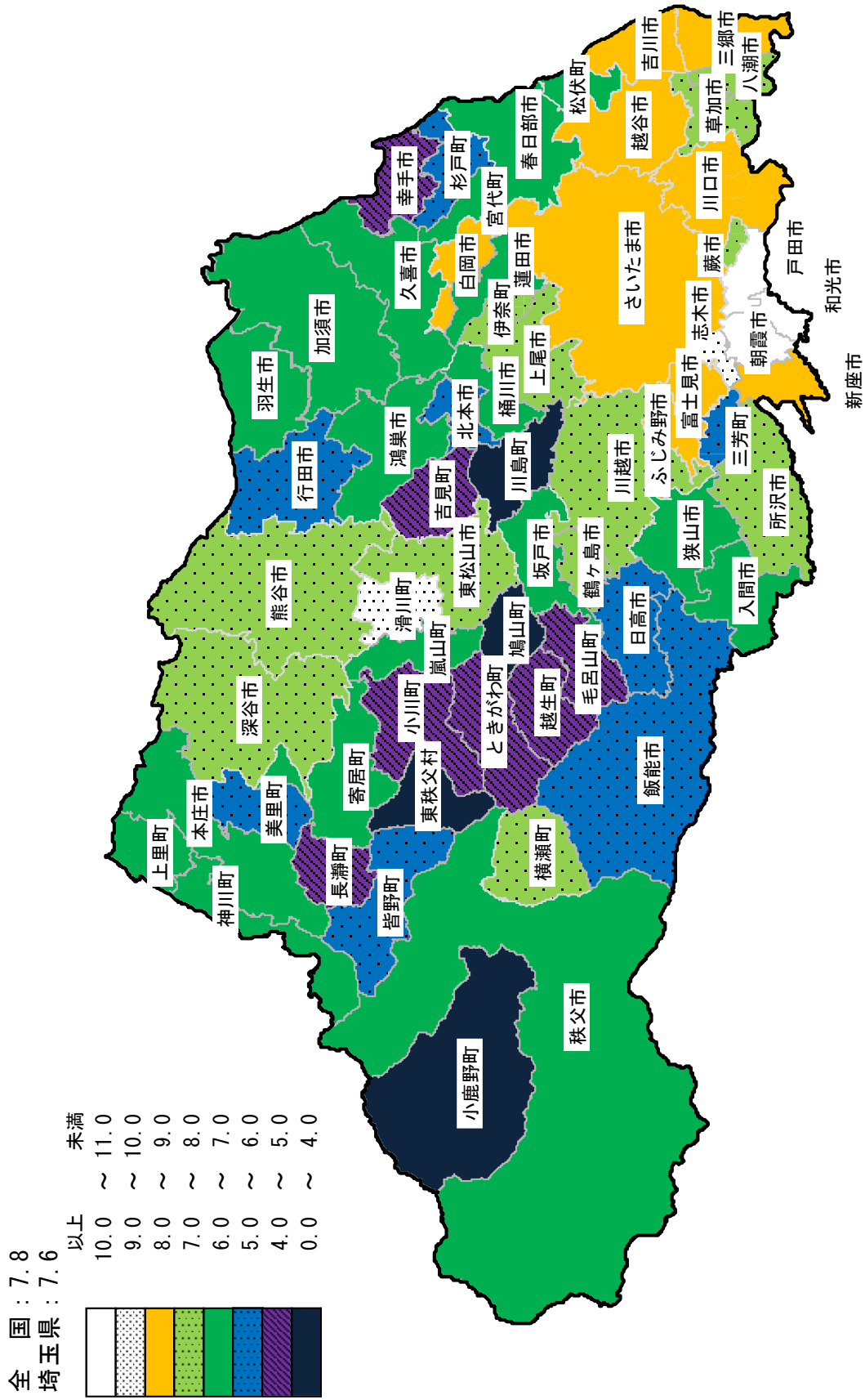
埼玉県

順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率
1	戸田市	10.9	22	上尾市	7.1	43	久喜市	6.1
2	和光市	10.6	23	鶴ヶ島市	7.0	44	羽生市	6.0
3	朝霞市	10.0	24	熊谷市	7.0	45	杉戸町	5.9
4	滑川町	9.6	25	草加市	7.0	46	北本市	5.8
5	志木市	9.2	26	東松山市	7.0	47	美里町	5.8
6	富士見市	8.6	27	神川町	6.9	48	三芳町	5.8
7	吉川市	8.5	28	坂戸市	6.7	49	飯能市	5.6
8	三郷市	8.4	29	松伏町	6.7	50	日高市	5.6
9	さいたま市	8.3	30	本庄市	6.6	51	行田市	5.5
10	越谷市	8.3	31	蓮田市	6.6	52	皆野町	5.3
11	川口市	8.2	32	入間市	6.5	53	幸手市	4.8
12	ふじみ野市	8.0	33	桶川市	6.5	54	ときがわ町	4.5
13	新座市	8.0	34	狭山市	6.4	55	越生町	4.5
14	白岡市	8.0	35	嵐山町	6.4	56	長瀬町	4.4
15	八潮市	7.9	36	宮代町	6.4	57	小川町	4.4
16	川越市	7.7	37	寄居町	6.3	58	毛呂山町	4.3
17	横瀬町	7.4	38	春日部市	6.2	59	吉見町	4.2
18	蕨市	7.4	39	鴻巣市	6.2	60	東秩父村	3.9
19	伊奈町	7.4	40	秩父市	6.2	61	川島町	3.7
20	所沢市	7.3	41	上里町	6.2	62	小鹿野町	3.5
21	深谷市	7.2	42	加須市	6.2	63	鳩山町	3.0

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮している。

図-2 出生率(人口千対) - 市町村別状況 -



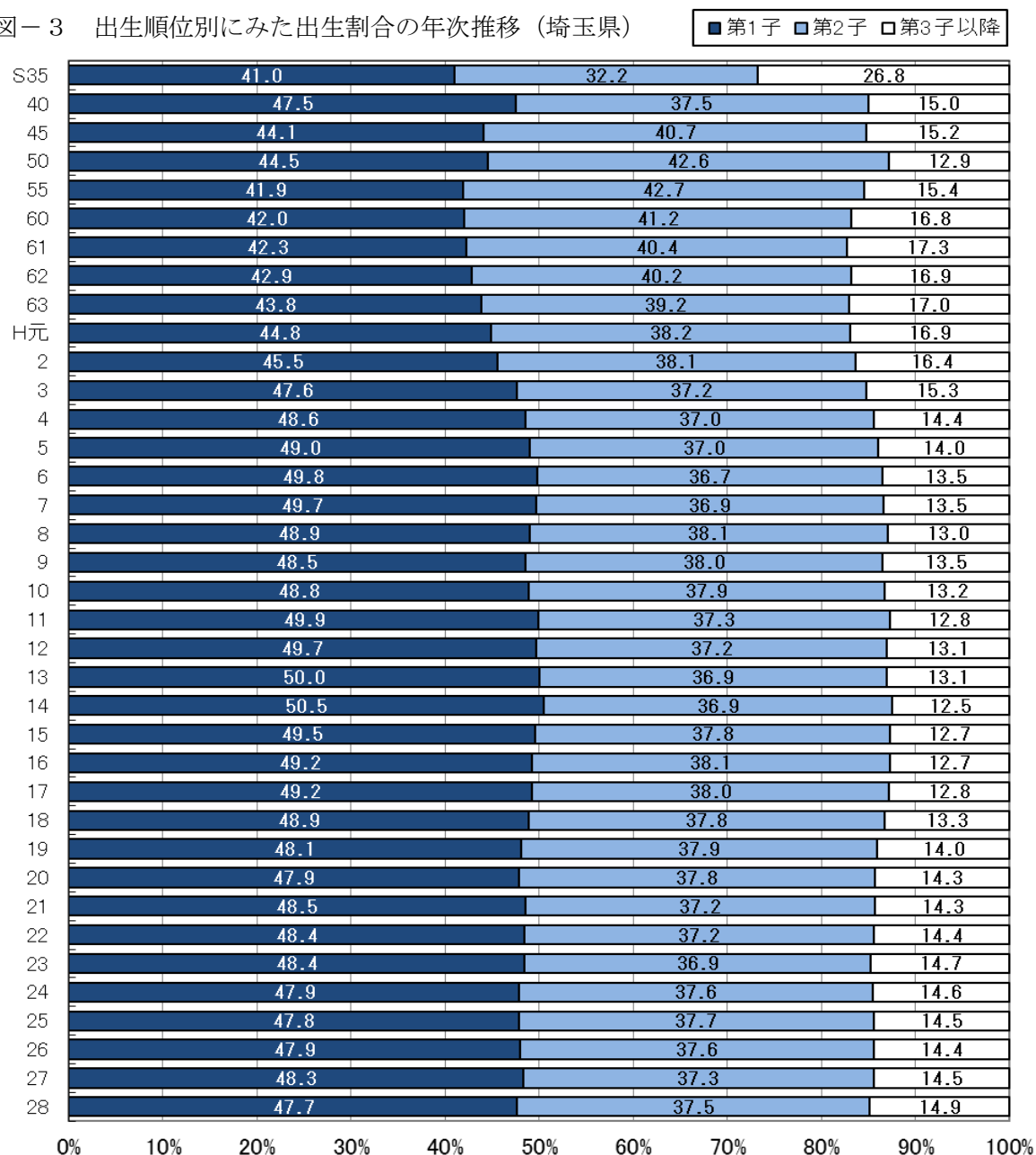
エ 出生順位別にみた出生の動向

出生順位別に出生数の構成割合の年次推移をみると、第1子の割合は昭和60年（42.0%）から平成6年（49.8%）まで増加を続けていた。しかし、平成7年以降は増減を繰り返し、平成15年からは減少傾向にあった。近年は48.0%前後で推移しており、平成28年は47.7%で、前年の48.3%を0.6ポイント下回った。

また、第2子の割合は昭和55年（42.7%）以降減少を続けていたが、平成6年から平成8年にかけてやや増加した。その後は再び増減を繰り返し、ここ数年は38.0%を下回る程度で推移している。平成28年は37.5%であった。

第3子以降の割合は、昭和35年には26.8%と全体の3割近くを占めていたものの、平成4年以降は一貫して15.0%を下回っている。平成28年は前年を0.4ポイント上回り14.9%であった。（図-3、表-5）

図-3 出生順位別にみた出生割合の年次推移（埼玉県）



注：昭和40年以前の第3子以降には、出生順位不詳を含む。

表一 5 出生順位別にみた出生数及び構成割合の年次推移

埼玉県

	出 生 数						構 成 割 合					
	総 数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子 以 降	総 数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子 以 降
							%	%	%	%	%	%
S 35	43 421	17 794	13 987	6 817	2 669	2 154	100.0	41.0	32.2	15.7	6.1	5.0
40	66 585	31 602	24 975	7 438	1 699	871	100.0	47.5	37.5	11.2	2.6	1.3
45	91 113	40 199	37 067	11 411	1 768	668	100.0	44.1	40.7	12.5	1.9	0.7
50	96 033	42 762	40 901	10 521	1 376	473	100.0	44.5	42.6	11.0	1.4	0.5
55	75 090	31 468	32 049	10 060	1 172	341	100.0	41.9	42.7	13.4	1.6	0.5
60	67 260	28 252	27 684	9 749	1 271	304	100.0	42.0	41.2	14.5	1.9	0.5
61	64 392	27 236	26 020	9 533	1 258	345	100.0	42.3	40.4	14.8	2.0	0.5
62	64 496	27 647	25 956	9 347	1 201	345	100.0	42.9	40.2	14.5	1.9	0.5
63	65 396	28 638	25 612	9 512	1 280	354	100.0	43.8	39.2	14.5	2.0	0.5
H 元	63 419	28 431	24 247	9 159	1 269	313	100.0	44.8	38.2	14.4	2.0	0.5
2	63 299	28 806	24 120	8 852	1 234	287	100.0	45.5	38.1	14.0	1.9	0.5
3	65 928	31 353	24 513	8 453	1 313	296	100.0	47.6	37.2	12.8	2.0	0.4
4	65 219	31 674	24 141	7 928	1 154	322	100.0	48.6	37.0	12.2	1.8	0.5
5	66 268	32 499	24 506	7 828	1 137	298	100.0	49.0	37.0	11.8	1.7	0.4
6	69 776	34 714	25 636	7 960	1 169	297	100.0	49.8	36.7	11.4	1.7	0.4
7	67 750	33 651	24 985	7 619	1 229	266	100.0	49.7	36.9	11.2	1.8	0.4
8	68 695	33 612	26 163	7 400	1 229	291	100.0	48.9	38.1	10.8	1.8	0.4
9	67 585	32 803	25 663	7 673	1 146	300	100.0	48.5	38.0	11.4	1.7	0.4
10	67 144	32 796	25 458	7 421	1 145	324	100.0	48.8	37.9	11.1	1.7	0.5
11	65 711	32 800	24 531	7 028	1 050	302	100.0	49.9	37.3	10.7	1.6	0.5
12	66 376	32 976	24 707	7 147	1 240	306	100.0	49.7	37.2	10.8	1.9	0.5
13	65 417	32 698	24 169	7 067	1 159	324	100.0	50.0	36.9	10.8	1.8	0.5
14	64 762	32 721	23 922	6 690	1 089	340	100.0	50.5	36.9	10.3	1.7	0.5
15	63 224	31 303	23 896	6 633	1 083	309	100.0	49.5	37.8	10.5	1.7	0.5
16	61 946	30 465	23 604	6 493	1 095	289	100.0	49.2	38.1	10.5	1.8	0.5
17	59 731	29 389	22 669	6 318	1 012	343	100.0	49.2	38.0	10.6	1.7	0.6
18	61 201	29 931	23 133	6 650	1 156	331	100.0	48.9	37.8	10.9	1.9	0.5
19	60 818	29 232	23 050	6 935	1 222	379	100.0	48.1	37.9	11.4	2.0	0.6
20	60 520	28 959	22 902	7 077	1 229	353	100.0	47.9	37.8	11.7	2.0	0.6
21	59 725	28 989	22 213	6 944	1 192	387	100.0	48.5	37.2	11.6	2.0	0.6
22	59 437	28 748	22 138	6 886	1 289	376	100.0	48.4	37.2	11.6	2.2	0.6
23	58 059	28 081	21 419	6 902	1 255	402	100.0	48.4	36.9	11.9	2.2	0.7
24	56 943	27 253	21 385	6 710	1 230	365	100.0	47.9	37.6	11.8	2.2	0.6
25	57 470	27 463	21 694	6 699	1 221	393	100.0	47.8	37.7	11.7	2.1	0.7
26	55 765	26 732	20 980	6 443	1 229	381	100.0	47.9	37.6	11.6	2.2	0.7
27	56 077	27 071	20 895	6 570	1 156	385	100.0	48.3	37.3	11.7	2.1	0.7
28	54 447	25 947	20 391	6 473	1 206	430	100.0	47.7	37.5	11.9	2.2	0.8

注：昭和40年以前の第5子以降には、出生順位不詳を含む。

オ 母の年齢階級別にみた出生の動向

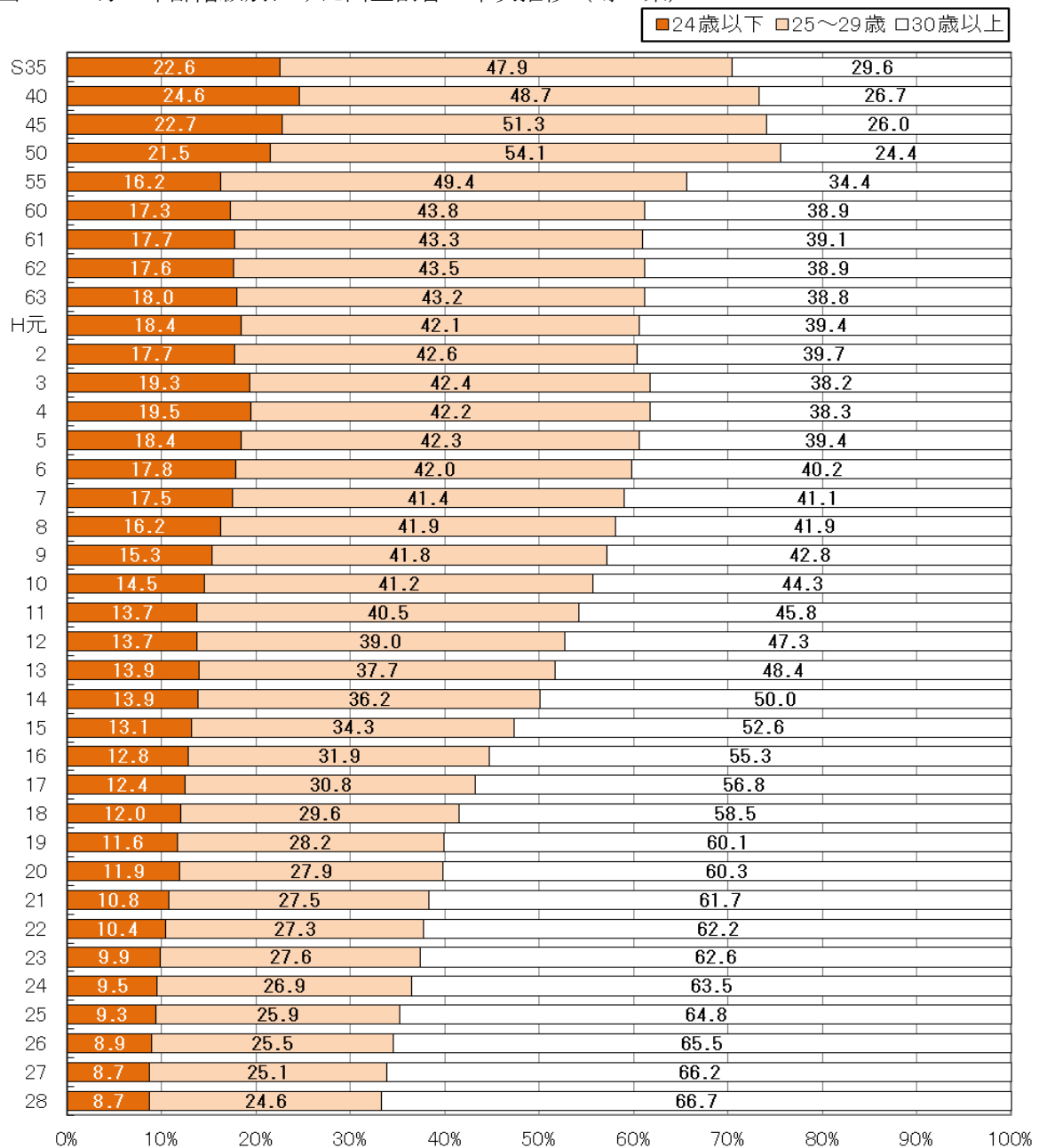
母の年齢階級別に出生数の構成割合をみると、25～29歳の母からの出生は昭和51年の57.0%をピークとして減少傾向にあり、平成19年からはピーク時の2分の1を下回っている。平成28年は24.6%と、初めて全体の4分の1を下回った。

また、24歳以下の割合も平成5年以降減少傾向にある。平成28年は前年と同率の8.7%であった。

一方、30歳以上の割合は平成4年以降一貫して増加が続いている。平成19年からは出生数全体の6割を超え、平成28年は66.7%と、初めて全体の3分の2を上回った。

(図-4、表-6)

図-4 母の年齢階級別にみた出生割合の年次推移 (埼玉県)



注：年齢不詳を除く出生数に対する割合である。

表一 6 母の年齢階級別にみた出生数及び構成割合の年次推移

埼玉県

	出 生 数									構 成 割 合							
	総数	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45歳以上	不詳	総数	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45歳以上
S 35	43 421	400	9 397	20 787	9 695	2 607	510	25	-	100.0	0.9	21.6	47.9	22.3	6.0	1.2	0.1
40	66 585	689	15 706	32 426	14 633	2 745	367	18	1	100.0	1.0	23.6	48.7	22.0	4.1	0.6	0.0
45	91 113	828	19 894	46 722	19 364	3 895	381	20	9	100.0	0.9	21.8	51.3	21.3	4.3	0.4	0.0
50	96 033	675	19 958	51 928	19 542	3 501	418	11	-	100.0	0.7	20.8	54.1	20.3	3.6	0.4	0.0
55	75 090	700	11 453	37 110	21 768	3 648	394	16	1	100.0	0.9	15.3	49.4	29.0	4.9	0.5	0.0
60	67 260	954	10 664	29 482	20 257	5 422	470	10	1	100.0	1.4	15.9	43.8	30.1	8.1	0.7	0.0
61	64 392	937	10 457	27 848	19 109	5 575	441	20	5	100.0	1.5	16.2	43.3	29.7	8.7	0.7	0.0
62	64 496	969	10 374	28 069	19 077	5 458	530	16	3	100.0	1.5	16.1	43.5	29.6	8.5	0.8	0.0
63	65 396	1 018	10 753	28 253	19 210	5 534	616	9	3	100.0	1.6	16.4	43.2	29.4	8.5	0.9	0.0
H 元	63 419	1 060	10 630	26 726	18 876	5 426	680	19	2	100.0	1.7	16.8	42.1	29.8	8.6	1.1	0.0
2	63 299	1 050	10 163	26 974	18 971	5 353	775	12	1	100.0	1.7	16.1	42.6	30.0	8.5	1.2	0.0
3	65 928	1 124	11 630	27 973	19 092	5 331	750	19	9	100.0	1.7	17.6	42.4	29.0	8.1	1.1	0.0
4	65 219	1 073	11 635	27 523	18 978	5 343	649	15	3	100.0	1.6	17.8	42.2	29.1	8.2	1.0	0.0
5	66 268	920	11 255	28 004	19 901	5 424	741	22	1	100.0	1.4	17.0	42.3	30.0	8.2	1.1	0.0
6	69 776	855	11 563	29 321	21 417	5 876	716	25	3	100.0	1.2	16.6	42.0	30.7	8.4	1.0	0.0
7	67 750	793	11 053	28 080	21 277	5 760	768	18	1	100.0	1.2	16.3	41.4	31.4	8.5	1.1	0.0
8	68 695	711	10 404	28 773	21 883	6 181	723	19	1	100.0	1.0	15.1	41.9	31.9	9.0	1.1	0.0
9	67 585	802	9 557	28 277	21 959	6 210	756	24	-	100.0	1.2	14.1	41.8	32.5	9.2	1.1	0.0
10	67 144	817	8 921	27 643	22 429	6 566	749	19	-	100.0	1.2	13.3	41.2	33.4	9.8	1.1	0.0
11	65 711	784	8 207	26 604	22 606	6 745	739	26	-	100.0	1.2	12.5	40.5	34.4	10.3	1.1	0.0
12	66 376	943	8 130	25 874	23 294	7 285	827	23	-	100.0	1.4	12.2	39.0	35.1	11.0	1.2	0.0
13	65 417	1 014	8 075	24 682	23 462	7 385	776	21	2	100.0	1.6	12.3	37.7	35.9	11.3	1.2	0.0
14	64 762	1 115	7 862	23 433	23 755	7 642	931	23	1	100.0	1.7	12.1	36.2	36.7	11.8	1.4	0.0
15	63 224	1 006	7 272	21 664	24 056	8 183	1 015	27	1	100.0	1.6	11.5	34.3	38.0	12.9	1.6	0.0
16	61 946	916	7 036	19 745	24 371	8 792	1 065	21	-	100.0	1.5	11.4	31.9	39.3	14.2	1.7	0.0
17	59 731	897	6 535	18 382	23 643	9 175	1 069	30	-	100.0	1.5	10.9	30.8	39.6	15.4	1.8	0.1
18	61 201	811	6 526	18 088	24 437	10 116	1 200	23	-	100.0	1.3	10.7	29.6	39.9	16.5	2.0	0.0
19	60 818	797	6 274	17 169	23 819	11 312	1 405	41	1	100.0	1.3	10.3	28.2	39.2	18.6	2.3	0.1
20	60 520	874	6 321	16 856	23 044	11 869	1 518	37	1	100.0	1.4	10.4	27.9	38.1	19.6	2.5	0.1
21	59 725	745	5 694	16 452	22 441	12 634	1 734	24	1	100.0	1.2	9.5	27.5	37.6	21.2	2.9	0.0
22	59 437	684	5 517	16 239	21 681	13 231	2 041	44	-	100.0	1.2	9.3	27.3	36.5	22.3	3.4	0.1
23	58 059	673	5 054	16 002	20 974	13 100	2 212	44	-	100.0	1.2	8.7	27.6	36.1	22.6	3.8	0.1
24	56 943	667	4 762	15 338	20 743	12 926	2 472	35	-	100.0	1.2	8.4	26.9	36.4	22.7	4.3	0.1
25	57 470	626	4 736	14 865	20 822	13 558	2 806	56	1	100.0	1.1	8.2	25.9	36.2	23.6	4.9	0.1
26	55 765	642	4 339	14 246	20 360	13 243	2 868	66	1	100.0	1.2	7.8	25.5	36.5	23.7	5.1	0.1
27	56 077	558	4 335	14 075	20 748	13 201	3 086	73	1	100.0	1.0	7.7	25.1	37.0	23.5	5.5	0.1
28	54 447	501	4 247	13 372	20 353	12 874	3 025	75	-	100.0	0.9	7.8	24.6	37.4	23.6	5.6	0.1

注：構成割合は、年齢不詳を除く出生数に対するものである。

(2) 死 亡

ア 死亡数及び死亡率

死亡数は63,466人で、前年の62,565人より901人増加した。

死亡率は人口千人に対し8.9で、前年の8.7を0.2ポイント上回った。全国（10.5）より1.6ポイント下回っている。

死亡率の年次推移をみると、昭和35年7.9、昭和45年5.7、昭和55年4.5と低下し、以降4.5前後で推移していたが、昭和61年以降上昇傾向に転じた。（表－7、図－5）

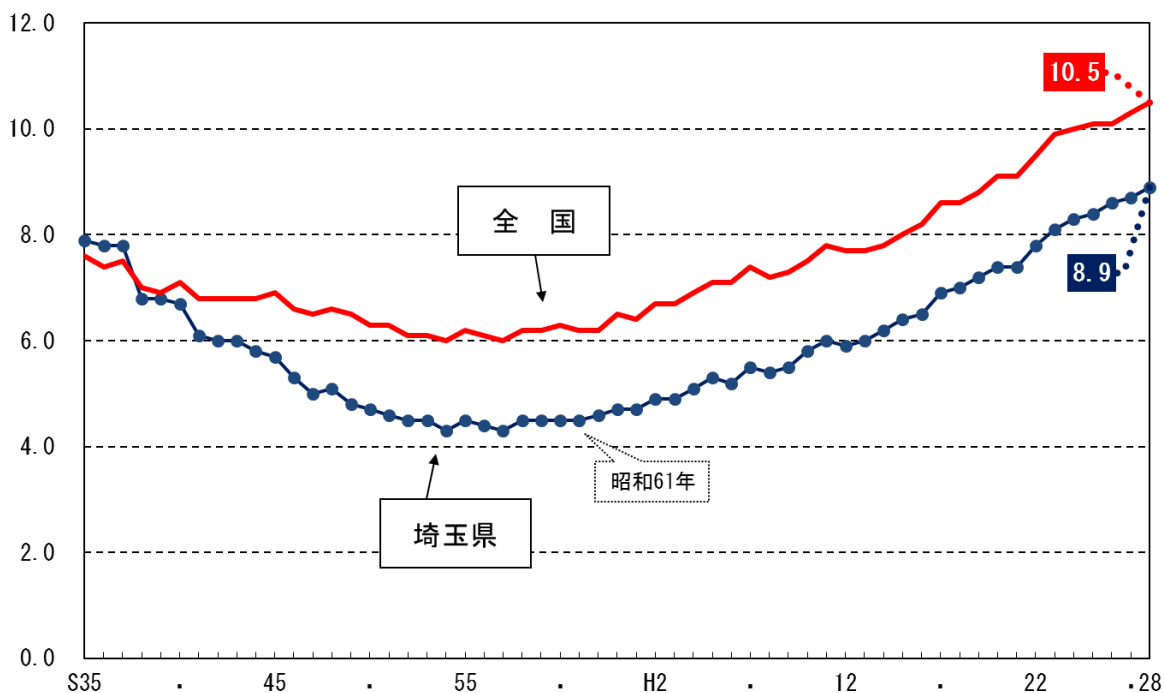
表－7 死亡数及び死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2
数	埼玉県	19 089	20 117	21 836	22 688	24 129	26 417	31 222
	全 国	706 599	700 438	712 962	702 275	722 801	752 283	820 305
率	埼玉県	7.9	6.7	5.7	4.7	4.5	4.5	4.9
	全 国	7.6	7.1	6.9	6.3	6.2	6.3	6.7
		7	12	17	22	26	27	28
数	埼玉県	36 799	40 486	48 095	55 487	61 269	62 565	63 466
	全 国	922 139	961 653	1 083 796	1 197 012	1 273 004	1 290 444	1 307 748
率	埼玉県	5.5	5.9	6.9	7.8	8.6	8.7	8.9
	全 国	7.4	7.7	8.6	9.5	10.1	10.3	10.5

注：率は人口千対である。

図－5 死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口千対）



イ 都道府県別にみた死亡率

都道府県別にみると、本県の死亡率は昭和 63 年以降平成 13 年まで低率順で第 1 位、平成 14、15 年は沖縄県に次いで第 2 位、平成 16 年以降は沖縄県及び神奈川県に次いで第 3 位となっていた。しかし平成 26 年に東京都が第 3 位、愛知県が第 4 位となり、埼玉県は第 5 位となった。平成 27 年以降は愛知県が第 5 位となり、埼玉県は第 4 位である。(表－8)

表－8 都道府県別にみた死亡率

	S60			H2			7			12			17		
	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位
高率順	全 国	6.3		全 国	6.7		全 国	7.4		全 国	7.7		全 国	8.6	
	高 知	8.7	1	高 知	9.3	1	島 根	10.0	1	高 知	10.2	1	島 根	11.6	1
	鹿 児 島	8.5	2	島 根	9.1	2	高 知	9.9	2	島 根	10.2	2	高 知	11.5	2
	島 根	8.3	3	鹿 児 島	8.8	3	鹿 児 島	9.6	3	秋 田	10.1	3	秋 田	11.4	3
	和 歌 山	8.2	4	徳 島	8.7	4	鳥 取	9.4	4	山 口	10.0	4	山 口	11.2	4
	徳 島	8.0	5	和 歌 山	8.7	5	山 口	9.4	5	鳥 取	9.7	5	山 形	11.0	5
	山 形	7.8	6	鳥 取	8.5	6	和 歌 山	9.4	6	徳 島	9.7	6	和 歌 山	10.9	6
	鳥 取	7.8	7	山 口	8.5	7	徳 島	9.2	7	和 歌 山	9.6	7	鹿 児 島	10.9	7
	大 分	7.8	8	山 形	8.3	8	秋 田	9.0	8	山 形	9.6	8	徳 島	10.7	8
	山 口	7.7	9	大 分	8.3	9	佐 賀	9.0	9	鹿 児 島	9.5	9	岩 手	10.6	9
佐 賀	7.6	10	佐 賀	8.3	10	愛 媛	9.0	10	大 分	9.3	10	愛 媛	10.6	10	
低率順	沖 縄	4.5	1	埼 玉	4.9	1	埼 玉	5.5	1	埼 玉	5.9	1	沖 縄	6.7	1
	埼 玉	4.5	2	神 奈 川	5.0	2	神 奈 川	5.7	2	神 奈 川	6.0	2	神 奈 川	6.8	2
	神 奈 川	4.6	3	千 葉	5.2	3	沖 縄	5.8	3	沖 縄	6.1	3	埼 玉	6.9	3
	千 葉	4.8	4	沖 縄	5.3	4	千 葉	6.0	4	千 葉	6.3	4	千 葉	7.4	4
	愛 知	5.1	5	愛 知	5.7	5	愛 知	6.3	5	愛 知	6.6	5	愛 知	7.4	5
	22			25			26			27			28		
	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位
高率順	全 国	9.5		全 国	10.1		全 国	10.1		全 国	10.3		全 国	10.5	
	秋 田	13.2	1	秋 田	14.2	1	秋 田	14.6	1	秋 田	14.5	1	秋 田	15.1	1
	高 知	12.8	2	高 知	13.8	2	高 知	13.6	2	島 根	13.9	2	高 知	14.4	2
	島 根	12.8	3	島 根	13.7	3	島 根	13.5	3	高 知	13.8	3	島 根	14.0	3
	山 口	12.3	4	山 形	13.2	4	山 形	13.4	4	山 形	13.4	4	山 形	13.7	4
	山 形	12.1	5	山 口	13.1	5	和 歌 山	13.0	5	青 森	13.1	5	岩 手	13.4	5
	和 歌 山	12.1	6	和 歌 山	13.1	6	徳 島	13.0	6	徳 島	13.1	6	青 森	13.4	6
	鹿 児 島	11.9	7	徳 島	13.1	7	青 森	12.9	7	和 歌 山	13.1	7	山 口	13.3	7
	徳 島	11.9	8	青 森	12.8	8	鹿 児 島	12.9	8	山 口	13.1	8	和 歌 山	13.3	8
	岩 手	11.9	9	鳥 取	12.7	9	山 口	12.8	9	鹿 児 島	13.0	9	鹿 児 島	13.3	9
鳥 取	11.9	10	鹿 児 島	12.6	10	岩 手	12.7	10	岩 手	12.9	10	徳 島	13.2	10	
低率順	沖 縄	7.3	1	沖 縄	7.8	1	沖 縄	8.1	1	沖 縄	8.0	1	沖 縄	8.2	1
	神 奈 川	7.6	2	神 奈 川	8.1	2	神 奈 川	8.3	2	神 奈 川	8.4	2	東 京	8.6	2
	埼 玉	7.8	3	埼 玉	8.4	3	東 京	8.5	3	東 京	8.5	3	神 奈 川	8.6	3
	愛 知	8.1	4	東 京	8.5	4	愛 知	8.6	4	埼 玉	8.7	4	埼 玉	8.9	4
	東 京	8.1	5	愛 知	8.6	5	埼 玉	8.6	5	愛 知	8.8	5	愛 知	8.9	5

注 1：率は人口千対である。

注 2：順位の数出には、小数点第 2 位以下を考慮している。

ウ 死因

(ア) 死因順位

平成28年の死亡数を死因順位別にみると、第1位は悪性新生物 19,148人（死亡総数の30.2%）、第2位は心疾患 10,026人（15.8%）、第3位は肺炎 6,543人（10.3%）、第4位は脳血管疾患 5,159人（8.1%）、第5位は老衰 3,510人（5.5%）となっている。

死亡率（人口10万対）を前年と比較すると、悪性新生物（267.1）が4.2ポイント、肺炎（91.3）が2.1ポイント、脳血管疾患（72.0）が0.2ポイント、老衰（49.0）が3.0ポイント、不慮の事故（20.3）が0.7ポイント、大動脈瘤及び解離（11.7）が1.6ポイント上昇した。一方、心疾患（139.9）が1.5ポイント、自殺（16.7）が1.3ポイント、腎不全（15.8）が0.1ポイント低下した。肝疾患（10.9）は同率であった。（表－9）

表－9 主な死因別死亡数及び死亡率（対前年比較）

埼玉県

死 因	平成28年			平成27年			平成27年との比較		
	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合
総 数	63 466	885.3	100.0	62 565	873.8	100.0	901	11.5	
悪 性 新 生 物	19 148	267.1	30.2	18 823	262.9	30.1	325	4.2	0.1
心 疾 患	10 026	139.9	15.8	10 123	141.4	16.2	△ 97	△ 1.5	△ 0.4
肺 炎	6 543	91.3	10.3	6 384	89.2	10.2	159	2.1	0.1
脳 血 管 疾 患	5 159	72.0	8.1	5 143	71.8	8.2	16	0.2	△ 0.1
老 衰	3 510	49.0	5.5	3 294	46.0	5.3	216	3.0	0.2
不 慮 の 事 故	1 455	20.3	2.3	1 406	19.6	2.2	49	0.7	0.1
自 殺	1 194	16.7	1.9	1 287	18.0	2.1	△ 93	△ 1.3	△ 0.2
腎 不 全	1 132	15.8	1.8	1 138	15.9	1.8	△ 6	△ 0.1	-
大動脈瘤及び解離	840	11.7	1.3	724	10.1	1.2	116	1.6	0.1
肝 疾 患	784	10.9	1.2	782	10.9	1.2	2	-	-
小 計	49 791	694.5	78.5	49 104	685.8	78.5	687	8.7	-
そ の 他	13 675	190.8	21.5	13 461	188.0	21.5	214	2.8	-

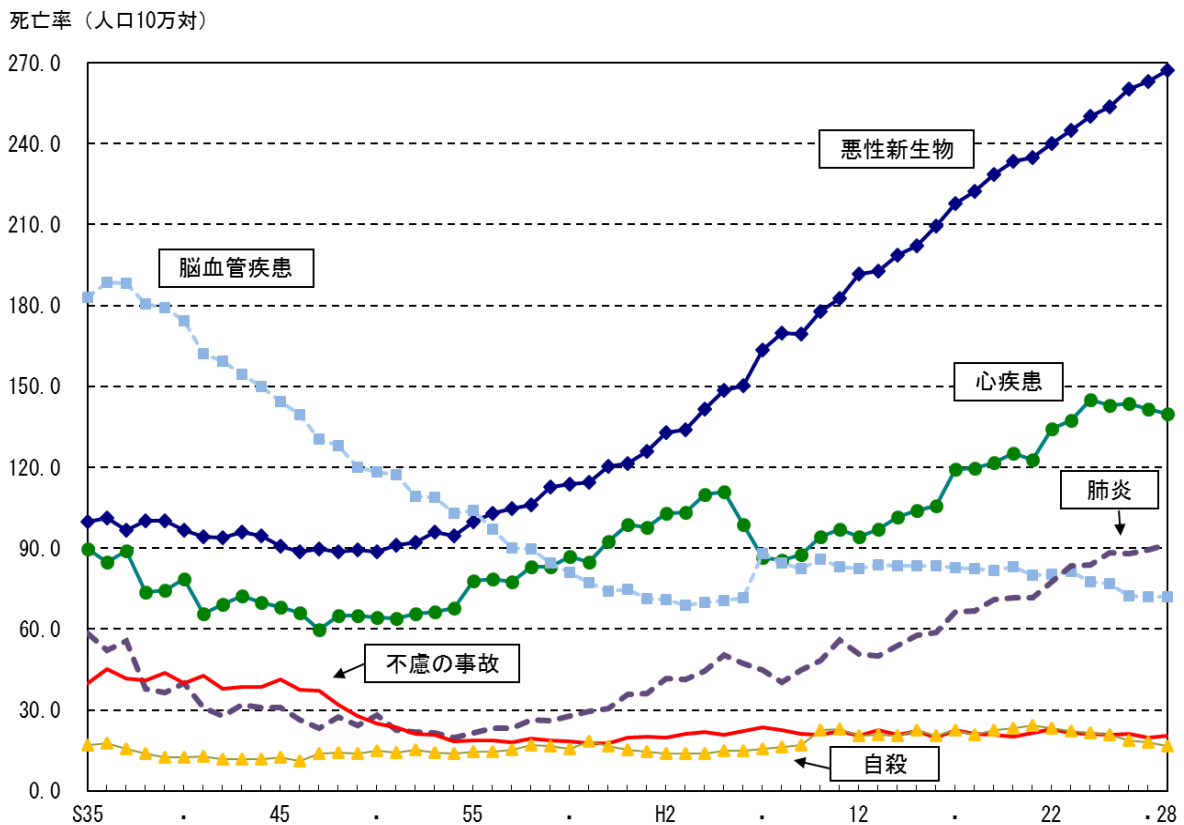
死因別に死亡率（人口10万対）の年次推移をみると、悪性新生物は昭和55年以降概ね上昇が続き、平成15年には200.0を超え、平成28年は267.1となった。また、死因順位は、昭和56年以降第1位となり、平成28年の死亡総数に占める割合は30.2%となっている。

心疾患は、昭和60年に脳血管疾患にかわり第2位となり、その後も緩やかな上昇を続けており、平成14年から100.0を越えている。平成28年の死亡総数に占める割合は15.8%となっている。

脳血管疾患は昭和36年をピークに低下し、昭和56年には悪性新生物にかわり第2位に、さらに昭和60年には心疾患にかわり第3位となり、その後も低下傾向にある。平成23年には、肺炎にかわり第4位となり、平成28年の死亡総数に占める割合は8.1%となっている。（表-9、図-6）

なお、平成6、7年の心疾患及び脳血管疾患の著しい変動は、死亡傾向が急激に変化したものではなく、死因分類（ICD-10）及び死亡診断書の改正によるものと考えられる（図-6の「注」を参照）。

図-6 主要死因別死亡率の年次推移（埼玉県）



注：死因分類(ICD-10)及び死亡診断書の改正による影響

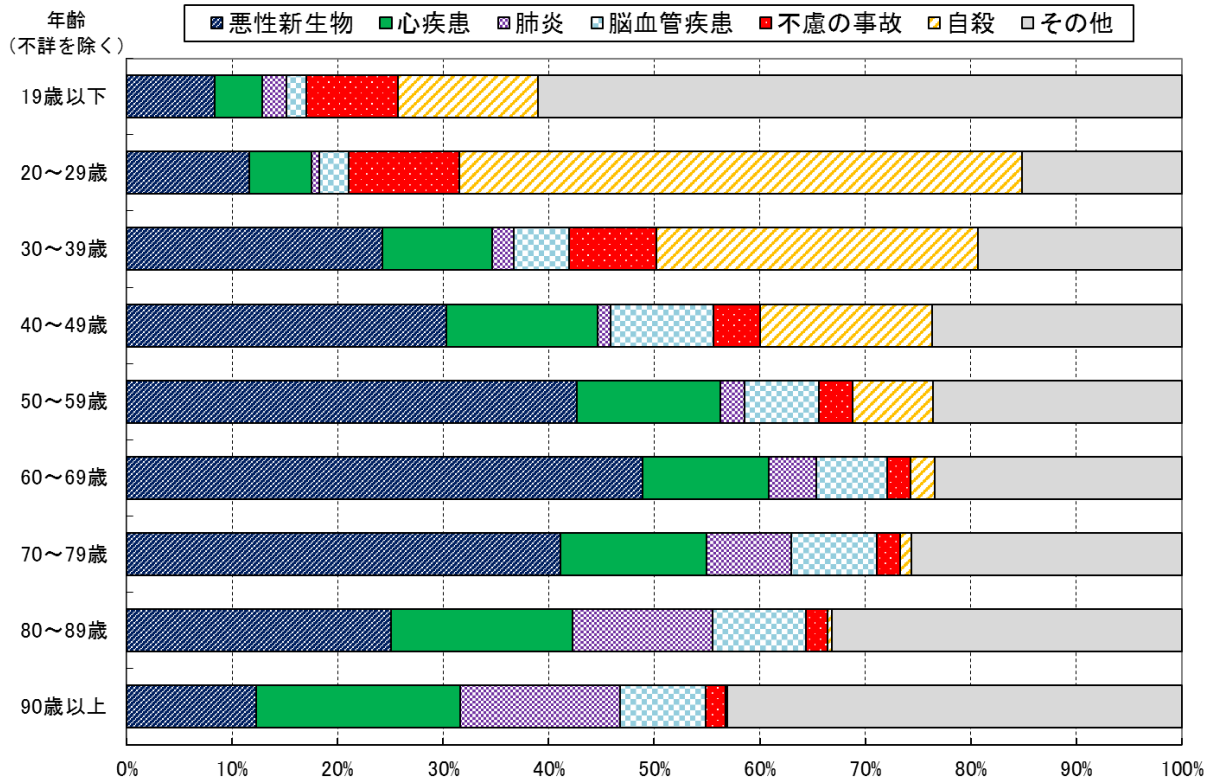
心疾患の平成6年から3年間は、大きく前年を下回っている。この低下は、平成7年1月施行の新しい死亡診断書（死体検案書）における注意書き「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」の影響が考えられる。

脳血管疾患は、平成7年は前年を大きく上回った。これは、死因分類の改正で、肺炎に影響を与えた疾患として脳出血を死亡原因とするようになった影響が考えられる。

なお、逆に肺炎は減少している。

年齢階級別に死因別割合をみると、30歳代以下では自殺、40～80歳代では悪性新生物、90歳以上では心疾患の割合が最も高くなっている。（図－7）

図－7 年齢階級別にみた主要死因別割合（埼玉県）



(イ) 悪性新生物（がん）

悪性新生物による死亡数は19,148人で、死亡総数の30.2%を占めている。つまり、全死者のおよそ3人に1人は悪性新生物で死亡したことになる。

年齢階級別にみると、70～79歳が6,428人で最も多く、次いで80～89歳が5,513人、60～69歳が3,878人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合をみると、60～69歳が48.9%で最も多く、次いで50～59歳が42.7%、70～79歳が41.1%の順となっている。（表－10）

死亡率は人口10万人に対し267.1で、前年より4.2ポイント上昇した。全国は前年より2.8ポイント上昇し298.3である。埼玉県及び全国の死亡率は上昇を続けている。

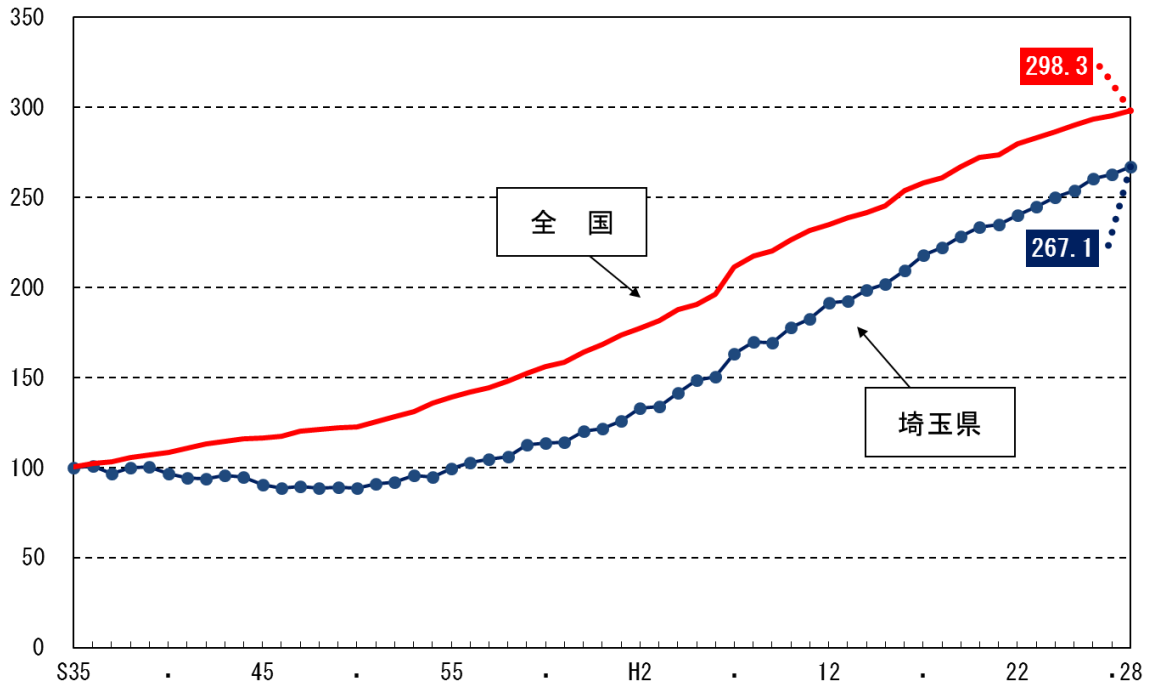
（図－8）

表－10 悪性新生物による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	埼玉県 不詳
死亡総数	63 466	264	257	482	1 403	2 737	7 926	15 648	21 981	12 766	2
悪性新生物による死亡数	19 148	22	30	117	425	1 168	3 878	6 428	5 513	1 567	-
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.2%	0.6%	2.2%	6.1%	20.3%	33.6%	28.8%	8.2%	-
死亡総数に占める割合	30.2%	8.3%	11.7%	24.3%	30.3%	42.7%	48.9%	41.1%	25.1%	12.3%	-

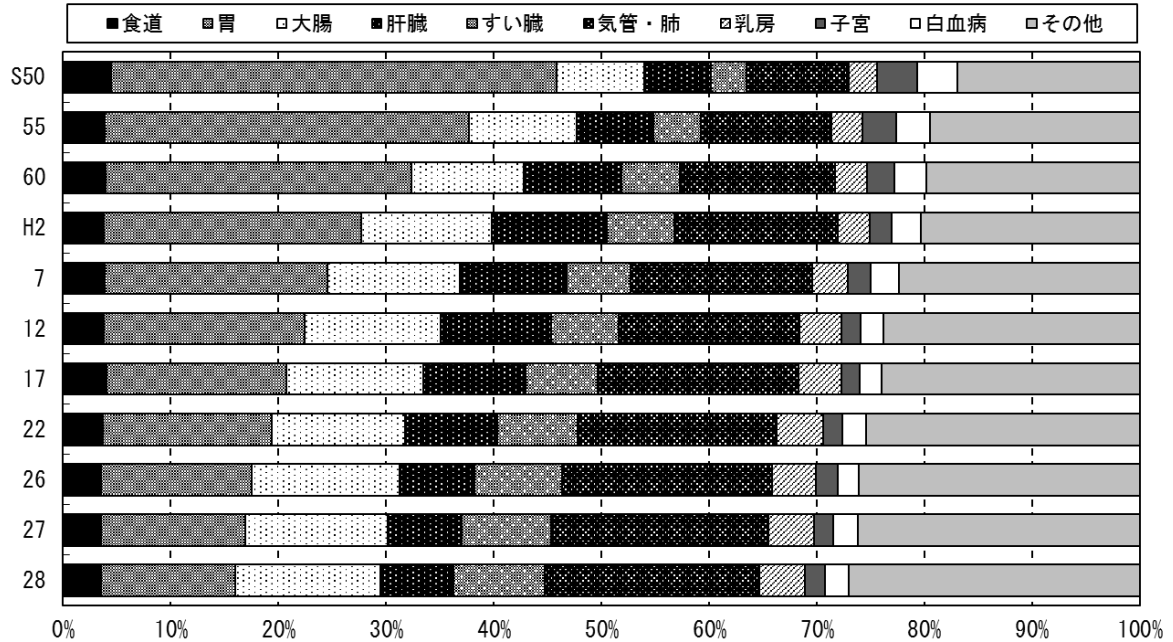
図－8 悪性新生物による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



部位別にみると、「気管・気管支及び肺」が3,814人（19.9%）で最も多く、平成14年以降第1位となっている。また、平成28年に「大腸」が初めて「胃」を上回り第2位となった。「大腸」は2,571人（13.4%）、「胃」は2,384人（12.5%）である。（図－9、表－11）

図－9 悪性新生物の部位別死亡割合の推移（埼玉県）



表－11 悪性新生物部位別死亡数及び割合の年次推移

	埼玉県													
	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	26	27	28
総数	2 426	2 914	3 508	4 265	5 404	6 665	8 518	10 942	13 163	15 190	17 058	18 599	18 823	19 148
食道	120	142	183	192	207	264	321	420	500	614	635	655	662	684
胃	1 272	1 393	1 535	1 763	1 830	1 891	2 036	2 268	2 450	2 534	2 677	2 603	2 520	2 384
大腸	346	542	694	1 031	1 344	1 670	1 929	2 105	2 549	2 494	2 571
（結腸）	178	290	410	664	878	1 101	1 283	1 364	1 716	1 694	1 778
（直腸）	63	106	130	168	252	284	367	466	569	646	741	833	800	793
肝臓	229	222	249	266	383	604	912	1 088	1 344	1 443	1 457	1 303	1 294	1 299
すい臓	42	66	106	139	240	366	532	647	825	1 019	1 269	1 513	1 567	1 624
気管・気管支及び肺	95	174	281	407	652	958	1 292	1 846	2 215	2 829	3 163	3 618	3 788	3 814
乳房	40	38	77	110	158	199	253	362	511	607	726	760	806	824
子宮	138	159	139	160	170	166	176	228	236	261	305	376	331	352
白血病	58	84	98	158	169	200	230	287	276	302	376	365	435	427
その他	369	530	710	724	1 053	1 323	1 735	2 452	3 136	3 652	4 345	4 857	4 926	5 169
総数	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
食道	4.9	4.9	5.2	4.5	3.8	4.0	3.8	3.8	3.8	4.0	3.7	3.5	3.5	3.6
胃	52.4	47.8	43.8	41.3	33.9	28.4	23.9	20.7	18.6	16.7	15.7	14.0	13.4	12.5
大腸	8.1	10.0	10.4	12.1	12.3	12.7	12.7	12.3	13.7	13.2	13.4
（結腸）	4.2	5.4	6.2	7.8	8.0	8.4	8.4	8.0	9.2	9.0	9.3
（直腸）	2.6	3.6	3.7	3.9	4.7	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.5	4.3	4.1
肝臓	9.4	7.6	7.1	6.2	7.1	9.1	10.7	9.9	10.2	9.5	8.5	7.0	6.9	6.8
すい臓	1.7	2.3	3.0	3.3	4.4	5.5	6.2	5.9	6.3	6.7	7.4	8.1	8.3	8.5
気管・気管支及び肺	3.9	6.0	8.0	9.5	12.1	14.4	15.2	16.9	16.8	18.6	18.5	19.5	20.1	19.9
乳房	1.6	1.3	2.2	2.6	2.9	3.0	3.0	3.3	3.9	4.0	4.3	4.1	4.3	4.3
子宮	5.7	5.5	4.0	3.8	3.1	2.5	2.1	2.1	1.8	1.7	1.8	2.0	1.8	1.8
白血病	2.4	2.9	2.8	3.7	3.1	3.0	2.7	2.6	2.1	2.0	2.2	2.0	2.3	2.2
その他	15.2	18.2	20.2	17.0	19.5	19.8	20.4	22.4	23.8	24.0	25.5	26.1	26.2	27.0

(ウ) 心疾患

心疾患による死亡数は10,026人で、死亡総数の15.8%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が3,785人で最も多く、90歳以上が2,472人、70～79歳が2,172人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が19.4%で最も多く、80～89歳が17.2%、40～49歳が14.3%の順となっている。（表－12）

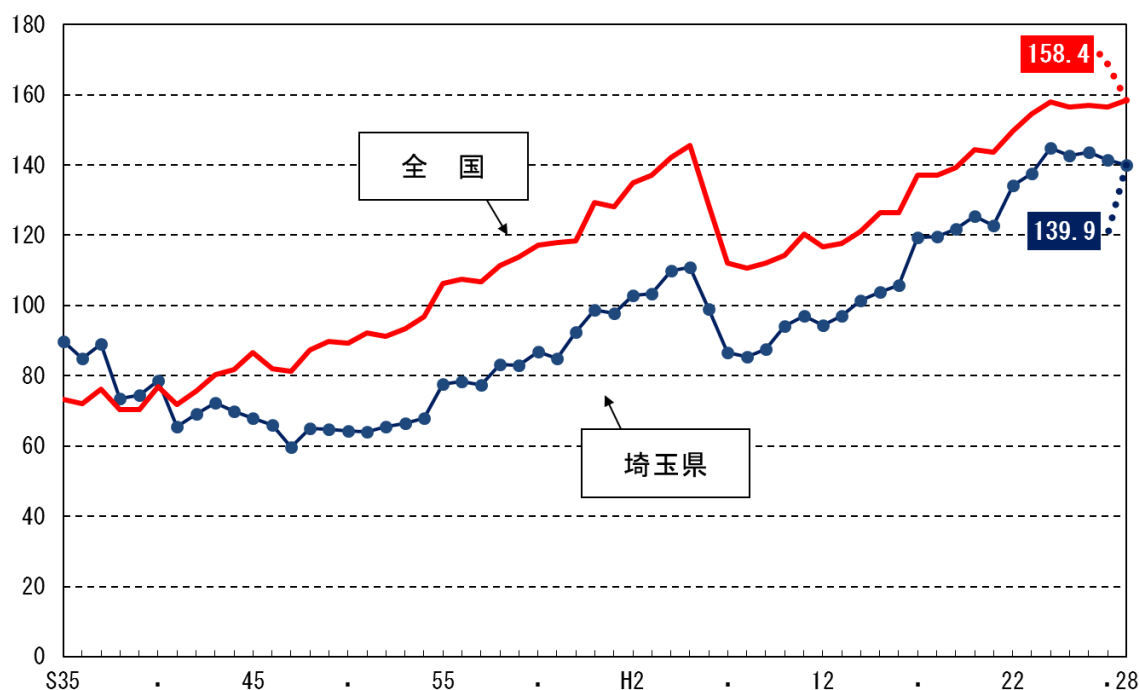
死亡率（人口10万対）は平成7年1月に死亡分類及び死亡診断書の改正が行われた影響で、平成7年に一度大幅な低下を見せたものの、その後は上昇傾向にあった。しかし、平成27年に前年より2.3ポイント低下し、平成28年はさらに1.5ポイント低下し139.9であった。全国は前年より1.9ポイント上昇し158.4である。（図－10）

表－12 心疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	埼玉県 不詳
死亡総数	63 466	264	257	482	1 403	2 737	7 926	15 648	21 981	12 766	2
心疾患による死亡数	10 026	12	15	50	201	371	948	2 172	3 785	2 472	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.1%	0.1%	0.5%	2.0%	3.7%	9.5%	21.7%	37.8%	24.7%	-
死亡総数に占める割合	15.8%	4.5%	5.8%	10.4%	14.3%	13.6%	12.0%	13.9%	17.2%	19.4%	-

図－10 心疾患による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



(エ) 肺炎

肺炎による死亡数は6,543人で、死亡総数の10.3%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が2,904人で最も多く、90歳以上が1,932人、70～79歳が1,253人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が15.1%で最も多く、80～89歳が13.2%、70～79歳が8.0%の順となっている。（表－13）

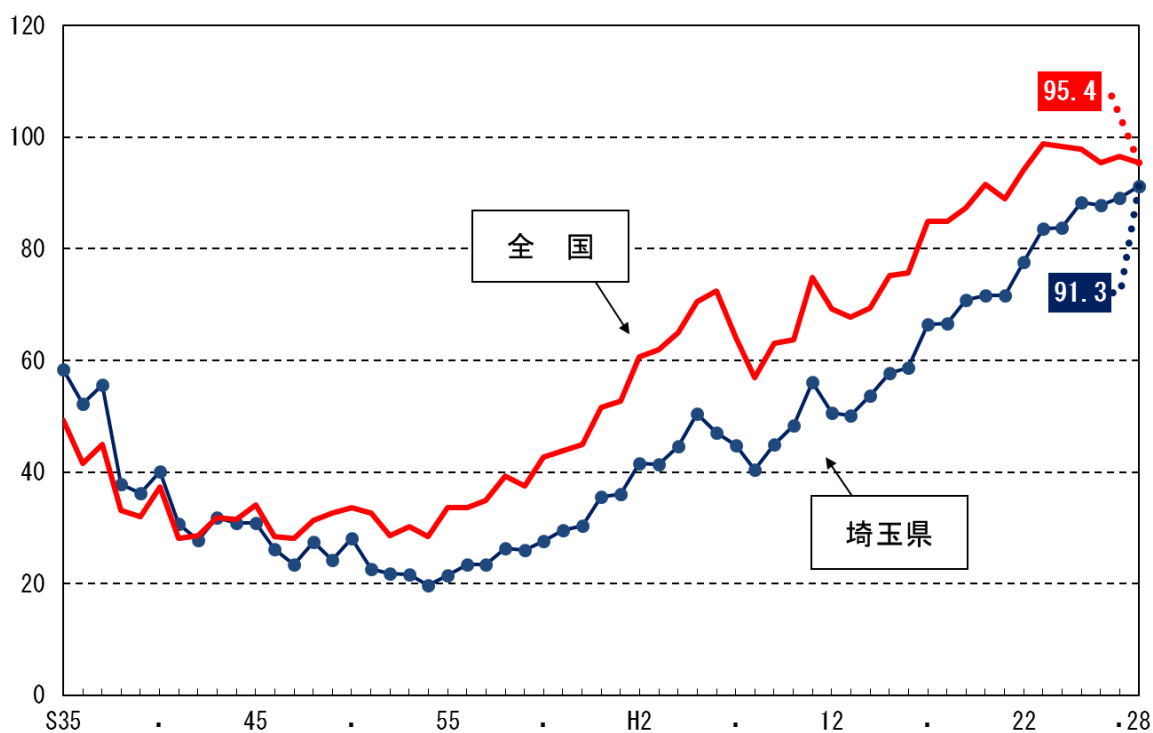
死亡率（人口10万対）は総じて上昇傾向にあり、平成28年は前年より2.1ポイント上昇し91.3であった。全国は前年より1.1ポイント低下し95.4である。（図－11）

表－13 肺炎による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	63 466	264	257	482	1 403	2 737	7 926	15 648	21 981	12 766	2
肺炎による死亡数	6 543	6	2	10	18	64	354	1 253	2 904	1 932	－
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.0%	0.2%	0.3%	1.0%	5.4%	19.2%	44.4%	29.5%	－
死亡総数に占める割合	10.3%	2.3%	0.8%	2.1%	1.3%	2.3%	4.5%	8.0%	13.2%	15.1%	－

図－11 肺炎による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



(オ) 脳血管疾患

脳血管疾患による死亡数は5,159人で、死亡総数の8.1%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が1,948人で最も多く、70～79歳が1,273人、90歳以上が1,038人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、40～49歳が9.7%で最も多く、次いで80～89歳が8.9%、70～79歳及び90歳以上が8.1%の順となっている。（表-14）

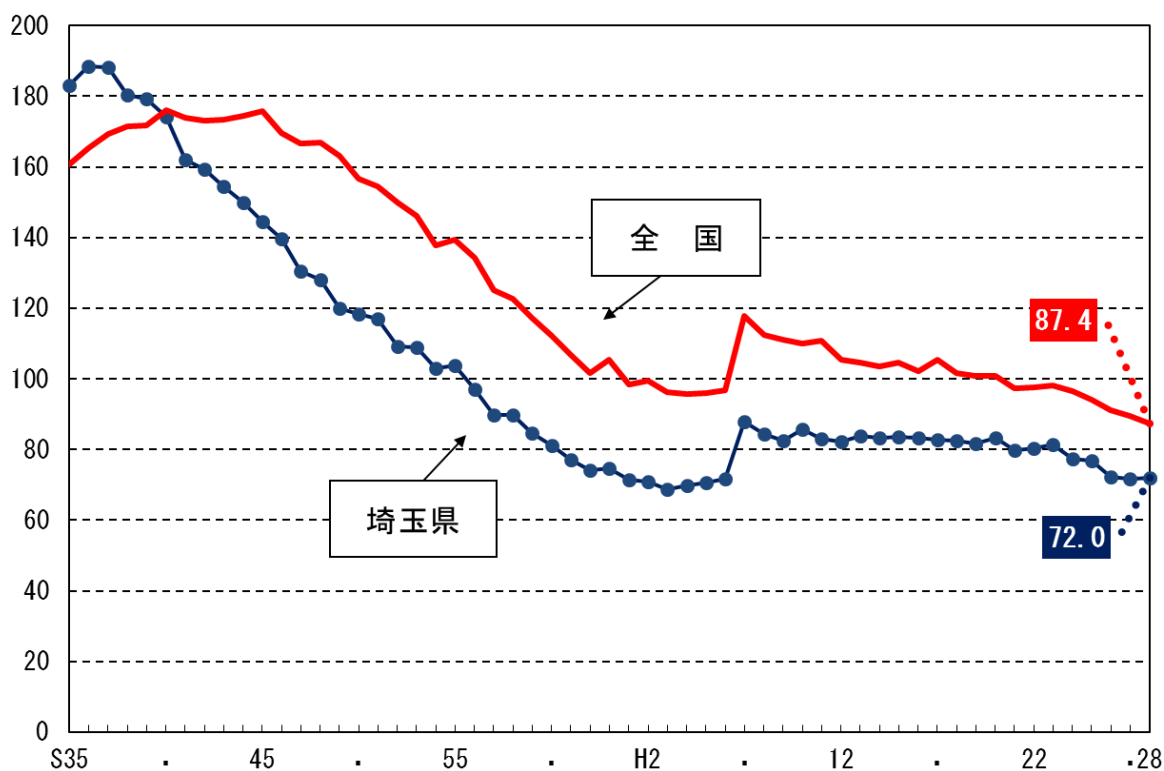
死亡率（人口10万対）は低下傾向にあるが、平成28年は前年より0.2ポイント上昇し72.0であった。全国は前年より2.0ポイント低下し87.4である。（図-12）

表-14 脳血管疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	63 466	264	257	482	1 403	2 737	7 926	15 648	21 981	12 766	2
脳血管疾患による死亡数	5 159	5	7	25	136	192	535	1 273	1 948	1 038	-
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.1%	0.5%	2.6%	3.7%	10.4%	24.7%	37.8%	20.1%	-
死亡総数に占める割合	8.1%	1.9%	2.7%	5.2%	9.7%	7.0%	6.7%	8.1%	8.9%	8.1%	-

図-12 脳血管疾患による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



(カ) 不慮の事故

不慮の事故による死亡数は1,455人で、死亡総数の2.3%を占めている。前年より49人増加した。

年齢階級別にみると、80～89歳が455人で最も多く、次いで70～79歳が350人、90歳以上が237人の順となっている。（表－15）

死亡率は人口10万人に対し20.3で、前年より0.7ポイント上昇した。

不慮の事故のうち交通事故による死亡数は減少傾向にある。平成28年の死亡数は248人で、前年より4人減少した。死亡率（人口10万対）は前年と同率の3.5であった。

なお全国は、不慮の事故が前年と同率の30.6、交通事故が前年より0.3ポイント低下し4.2である。（表－16）

表－15 不慮の事故、交通事故による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼玉県

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	63 466	264	257	482	1 403	2 737	7 926	15 648	21 981	12 766	2
不慮の事故による死亡数	1 455	23	27	40	62	89	172	350	455	237	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	1.6%	1.9%	2.7%	4.3%	6.1%	11.8%	24.1%	31.3%	16.3%	-
死亡総数に占める割合	2.3%	8.7%	10.5%	8.3%	4.4%	3.3%	2.2%	2.2%	2.1%	1.9%	-
不慮の事故のうち交通事故による死亡数	248	13	16	26	24	23	34	65	42	5	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	5.2%	6.5%	10.5%	9.7%	9.3%	13.7%	26.2%	16.9%	2.0%	-
不慮の事故に占める交通事故の割合	17.0%	56.5%	59.3%	65.0%	38.7%	25.8%	19.8%	18.6%	9.2%	2.1%	-

表－16 不慮の事故、交通事故による死亡数の年次推移

		不慮の事故				交通事故					
		埼玉県		全国		埼玉県			全国		
		数	率(人口10万対)	数	率(人口10万対)	数	率(人口10万対)	不慮の事故に占める割合	数	率(人口10万対)	不慮の事故に占める割合
S	35	970	39.9	38 964	41.7	468	19.3	48.2	13 429	14.4	34.5
	40	1 207	40.0	40 188	40.9	671	22.3	55.6	16 257	16.5	40.5
	45	1 599	41.4	43 802	42.5	983	25.5	61.5	21 535	20.9	49.2
	50	1 201	25.0	33 710	30.3	628	13.1	52.3	14 206	12.8	42.1
	55	1 018	18.8	29 217	25.1	488	9.0	47.9	11 752	10.1	40.2
	60	1 085	18.5	29 597	24.6	587	10.0	54.1	12 660	10.5	42.8
H	2	1 262	19.8	32 122	26.2	703	11.0	55.7	14 631	11.9	45.5
	7	1 575	23.5	45 323	36.5	683	10.2	43.4	15 147	12.2	33.4
	12	1 405	20.4	39 484	31.4	541	7.9	38.5	12 857	10.2	32.6
	13	1 570	22.7	39 496	31.4	568	8.2	36.2	12 378	9.8	31.3
	14	1 442	20.8	38 643	30.7	491	7.1	34.0	11 743	9.3	30.4
	15	1 548	22.3	38 714	30.7	538	7.7	34.8	10 913	8.7	28.2
	16	1 385	19.9	38 193	30.3	421	6.0	30.4	10 551	8.4	27.6
	17	1 577	22.6	39 863	31.6	472	6.8	29.9	10 028	7.9	25.2
	18	1 475	21.1	38 270	30.3	412	5.9	27.9	9 048	7.2	23.6
	19	1 460	20.8	37 966	30.1	354	5.1	24.2	8 268	6.6	21.8
	20	1 413	20.1	38 153	30.3	342	4.9	24.2	7 499	6.0	19.7
	21	1 513	21.5	37 756	30.0	332	4.7	21.9	7 309	5.8	19.4
	22	1 635	23.0	40 732	32.2	300	4.2	18.3	7 222	5.7	17.7
	23	1 536	21.6	59 416	47.1	315	4.4	20.5	6 741	5.3	11.3
	24	1 514	21.2	41 031	32.6	297	4.2	19.6	6 414	5.1	15.6
	25	1 481	20.8	39 574	31.5	288	4.0	19.4	6 060	4.8	15.3
	26	1 523	21.3	39 029	31.1	254	3.6	16.7	5 717	4.6	14.6
	27	1 406	19.6	38 306	30.6	252	3.5	17.9	5 646	4.5	14.7
	28	1 455	20.3	38 306	30.6	248	3.5	17.0	5 278	4.2	13.8

注：昭和35年から平成2年は「自動車事故」の数、平成7年以降は「交通事故」の数である。

(キ) 自殺

自殺による死亡数は1,194人（男性835人、女性359人）で、死亡総数の1.9%を占めている。前年より93人減少した。死亡率は人口10万人に対し16.7で、前年より1.3ポイント低下した。（表-17）

年齢階級別にみると、70歳以上が257人（21.5%）で最も多く、次いで40～49歳が229人（19.2%）、50～59歳が208人（17.4%）の順となっている。（表-18）

表-17 自殺による死亡数及び死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	26	27	28
数	埼玉県	413	375	480	723	787	909	885	1 043	1 414	1 559	1 642	1 337	1 287	1 194
	全国	20 143	14 444	15 728	19 975	20 542	23 383	20 088	21 420	30 251	30 553	29 554	24 417	23 152	21 017
率	埼玉県	17.0	12.4	12.4	15.0	14.6	15.5	13.9	15.6	20.6	22.4	23.1	18.7	18.0	16.7
	全国	21.6	14.7	15.3	18.0	17.7	19.4	16.4	17.2	24.1	24.2	23.4	19.5	18.5	16.8

注：率は人口10万対である。

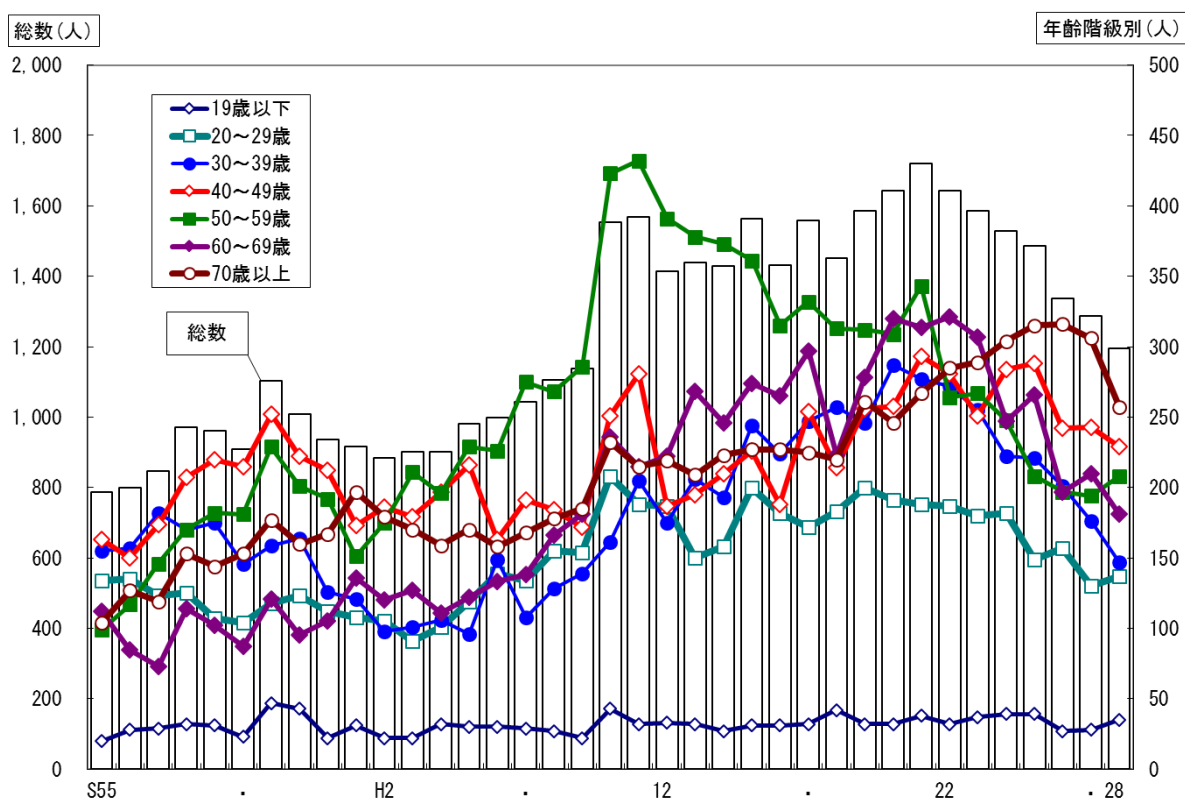
表-18 自殺による死亡数及び割合の年次推移（年齢階級別）

		総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
		人	人	人	人	人	人	人	人
S	35	413	47	143	45	37	44	47	50
	40	375	32	88	65	36	37	59	58
	45	480	28	117	81	53	57	62	82
	50	723	32	158	128	119	60	104	122
	55	787	20	134	155	163	99	112	104
	60	909	23	104	146	215	181	87	153
H	2	885	22	105	98	186	175	120	179
	7	1 043	29	134	108	191	275	138	168
	12	1 414	33	187	175	187	391	222	219
	17	1 559	32	172	247	254	332	297	225
	18	1 452	42	183	257	214	313	223	220
	19	1 585	32	200	246	256	312	278	261
	20	1 643	32	191	287	258	309	320	246
	21	1 720	38	188	277	293	343	314	267
	22	1 642	32	187	272	281	264	321	285
	23	1 586	37	180	255	251	267	307	289
	24	1 528	39	182	223	284	248	248	304
	25	1 486	39	149	221	288	208	266	315
	26	1 337	27	157	201	242	197	197	316
27	1 287	28	130	176	243	194	210	306	
28	1 194	35	137	147	229	208	181	257	
		%	%	%	%	%	%	%	%
S	35	100.0	11.4	34.6	10.9	9.0	10.7	11.4	12.1
	40	100.0	8.5	23.5	17.3	9.6	9.9	15.7	15.5
	45	100.0	5.8	24.4	16.9	11.0	11.9	12.9	17.1
	50	100.0	4.4	21.9	17.7	16.5	8.3	14.4	16.9
	55	100.0	2.5	17.0	19.7	20.7	12.6	14.2	13.2
	60	100.0	2.5	11.4	16.1	23.7	19.9	9.6	16.8
H	2	100.0	2.5	11.9	11.1	21.0	19.8	13.6	20.2
	7	100.0	2.8	12.8	10.4	18.3	26.4	13.2	16.1
	12	100.0	2.3	13.2	12.4	13.2	27.7	15.7	15.5
	17	100.0	2.1	11.0	15.8	16.3	21.3	19.1	14.4
	18	100.0	2.9	12.6	17.7	14.7	21.6	15.4	15.2
	19	100.0	2.0	12.6	15.5	16.2	19.7	17.5	16.5
	20	100.0	1.9	11.6	17.5	15.7	18.8	19.5	15.0
	21	100.0	2.2	10.9	16.1	17.0	19.9	18.3	15.5
	22	100.0	1.9	11.4	16.6	17.1	16.1	19.5	17.4
	23	100.0	2.3	11.3	16.1	15.8	16.8	19.4	18.2
	24	100.0	2.6	11.9	14.6	18.6	16.2	16.2	19.9
	25	100.0	2.6	10.0	14.9	19.4	14.0	17.9	21.2
	26	100.0	2.0	11.7	15.0	18.1	14.7	14.7	23.6
27	100.0	2.2	10.1	13.7	18.9	15.1	16.3	23.8	
28	100.0	2.9	11.5	12.3	19.2	17.4	15.2	21.5	

注：70歳以上には年齢不詳を含む。

自殺による死亡総数は近年減少傾向にある。平成28年の死亡数を年齢階級別にみると、30～39歳、40～49歳、60～69歳及び70歳以上が減少した。特に、70歳以上は平成26年まで増加傾向にあったが、平成27年以降減少に転じ、平成28年は前年より大幅に減少し、300人を割った。また、近年減少傾向であった50～59歳が、平成28年は増加に転じた。（表－18、図－13）

図－13 自殺による死亡数の年次推移（年齢階級別）（埼玉県）



(ク) 妊産婦死亡

妊産婦死亡数は1人で、前年より2人減少した。妊産婦死亡率（出産（出生＋死産）10万対）は前年より3.4ポイント低下し1.8であった。全国の妊産婦死亡率は前年より0.4ポイント低下し3.4である。（表－19、図－14）

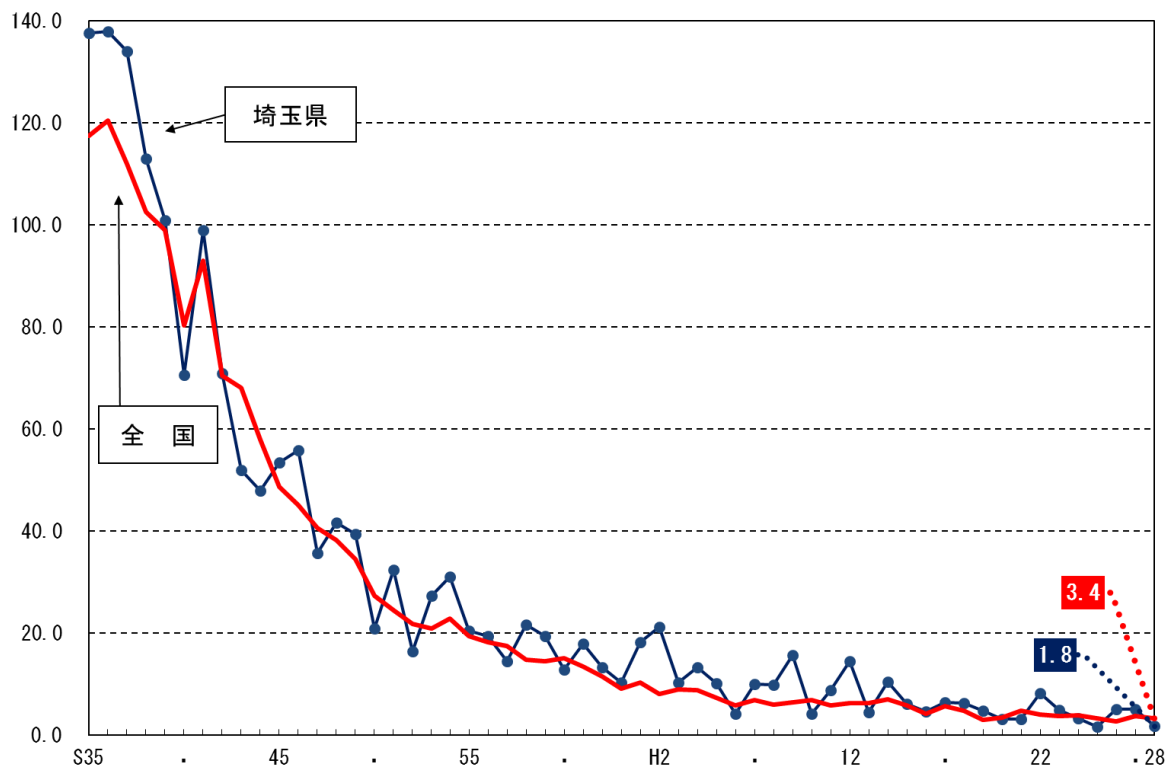
表－19 妊産婦死亡数及び死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	26	27	28
数	埼玉県	65	50	51	21	16	9	14	7	10	4	5	3	3	1
	全国	2 097	1 597	1 008	546	323	226	105	85	78	62	45	28	39	34
率	埼玉県	137.7	70.6	53.5	21.0	20.5	12.9	21.3	10.0	14.6	6.5	8.2	5.2	5.2	1.8
	全国	117.5	80.4	48.7	27.3	19.5	15.1	8.2	6.9	6.3	5.7	4.1	2.7	3.8	3.4

注：率は出産（出生＋死産）10万対である。

図－14 妊産婦死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

妊産婦死亡率(出産10万対)



エ 市町村別にみた死亡率

死亡率（人口千対）を市町村別にみると、低率順では、和光市（5.4）、戸田市（6.0）、朝霞市（6.6）の順である。

また、高率順では、皆野町（17.2）、小鹿野町（17.0）、長瀨町（16.7）の順である。（表-20、図-15）

表-20 市町村別にみた死亡率（低率順）

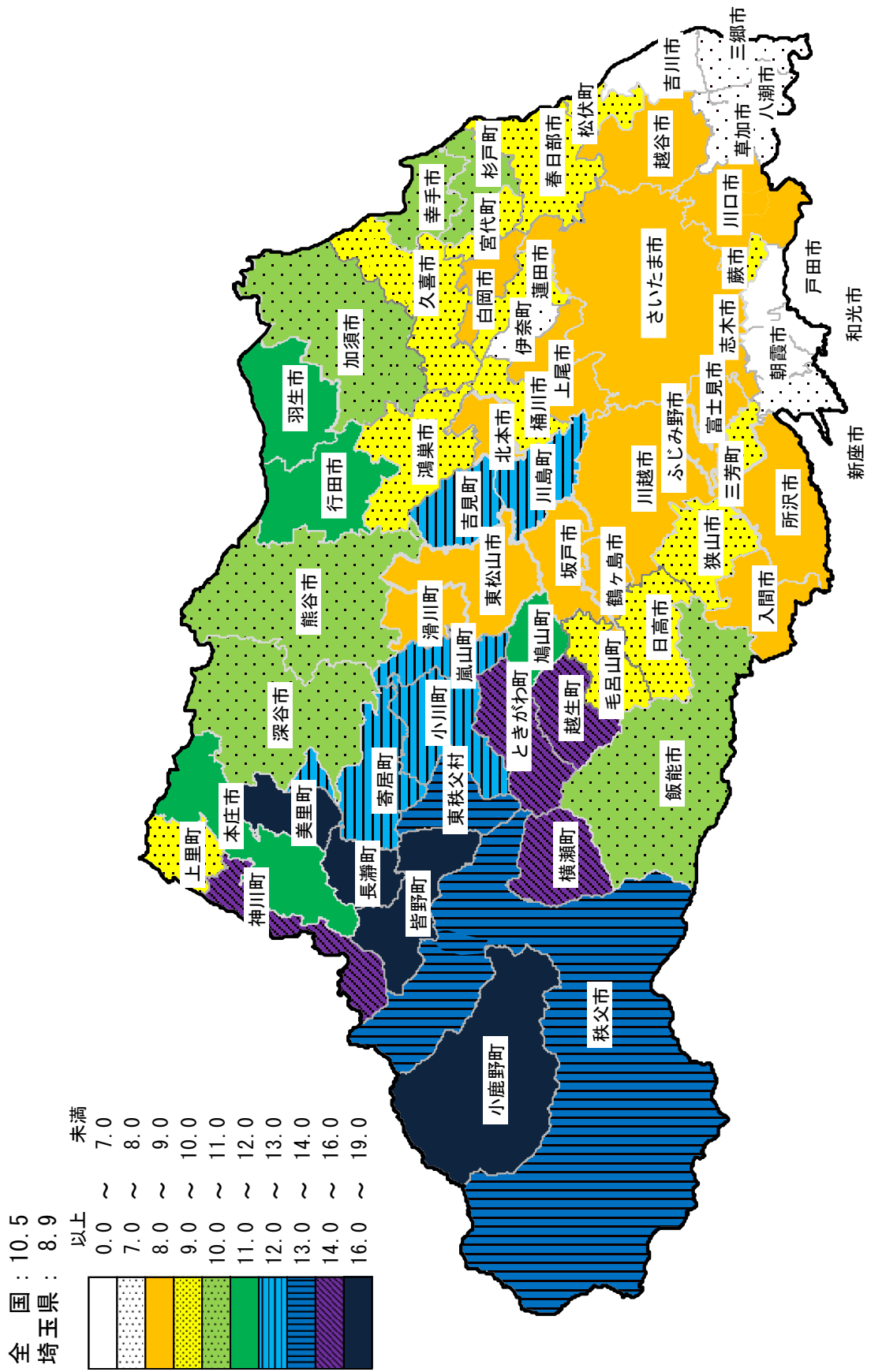
埼玉県

順位	市町村	死亡率	順位	市町村	死亡率	順位	市町村	死亡率
1	和光市	5.4	22	志木市	8.5	43	熊谷市	10.6
2	戸田市	6.0	23	ふじみ野市	8.5	44	加須市	10.6
3	朝霞市	6.6	24	川越市	8.6	45	羽生市	11.0
4	吉川市	6.9	25	入間市	8.6	46	本庄市	11.4
5	伊奈町	7.3	26	蕨市	9.0	47	鳩山町	11.5
6	草加市	7.7	27	鴻巣市	9.1	48	行田市	11.6
7	新座市	7.7	28	桶川市	9.1	49	小川町	12.1
8	八潮市	7.8	29	久喜市	9.1	50	嵐山町	12.1
9	三郷市	7.8	30	上里町	9.1	51	吉見町	12.2
10	越谷市	8.0	31	三芳町	9.2	52	川島町	12.6
11	さいたま市	8.0	32	春日部市	9.2	53	寄居町	12.7
12	川口市	8.2	33	宮代町	9.5	54	秩父市	13.0
13	上尾市	8.2	34	蓮田市	9.6	55	東秩父村	13.0
14	富士見市	8.3	35	日高市	9.6	56	越生町	14.2
15	白岡市	8.4	36	狭山市	9.6	57	神川町	14.4
16	鶴ヶ島市	8.4	37	松伏町	9.8	58	ときがわ町	15.9
17	東松山市	8.4	38	毛呂山町	9.9	59	横瀬町	15.9
18	所沢市	8.4	39	深谷市	10.3	60	美里町	16.5
19	滑川町	8.4	40	幸手市	10.3	61	長瀨町	16.7
20	坂戸市	8.5	41	飯能市	10.3	62	小鹿野町	17.0
21	北本市	8.5	42	杉戸町	10.5	63	皆野町	17.2

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮している。

図-15 死亡率（人口千対）—市町村別状況—



(3) 乳児死亡及び新生児死亡

乳児死亡数は118人で、前年より7人増加した。乳児死亡率は出生千人に対し2.2で、前年より0.2ポイント上昇した。

乳児死亡のうち新生児死亡数は、52人で前年より4人増加した。新生児死亡率は出生千人に対し1.0で、前年より0.1ポイント上昇した。

全国は、乳児死亡率が前年より0.1ポイント上昇し2.0、新生児死亡率が前年と同率の0.9であった。(表-21、図-16、図-17)

表-21 乳児死亡及び新生児死亡の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	
乳児	数	埼玉県	1 523	1 348	1 232	1 015	558	369	280
		全国	49 293	33 742	25 412	19 103	11 841	7 899	5 616
	率	埼玉県	35.1	20.2	13.5	10.6	7.4	5.5	4.4
		全国	30.7	18.5	13.1	10.0	7.5	5.5	4.6
新生児	数	埼玉県	955	931	869	673	369	228	168
		全国	27 362	21 260	16 742	12 912	7 796	4 910	3 179
	率	埼玉県	22.0	14.0	9.5	7.0	4.9	3.4	2.7
		全国	17.0	11.7	8.7	6.8	4.9	3.4	2.6

		7	12	17	22	26	27	28	
乳児	数	埼玉県	257	210	137	133	118	111	118
		全国	5 054	3 830	2 958	2 450	2 080	1 916	1 928
	率	埼玉県	3.8	3.2	2.3	2.2	2.1	2.0	2.2
		全国	4.3	3.2	2.8	2.3	2.1	1.9	2.0
新生児	数	埼玉県	124	105	61	62	54	48	52
		全国	2 615	2 106	1 510	1 167	952	902	874
	率	埼玉県	1.8	1.6	1.0	1.0	1.0	0.9	1.0
		全国	2.2	1.8	1.4	1.1	0.9	0.9	0.9

注：率は出生千対である。

図-16 乳児死亡率の年次推移
(埼玉県・全国)

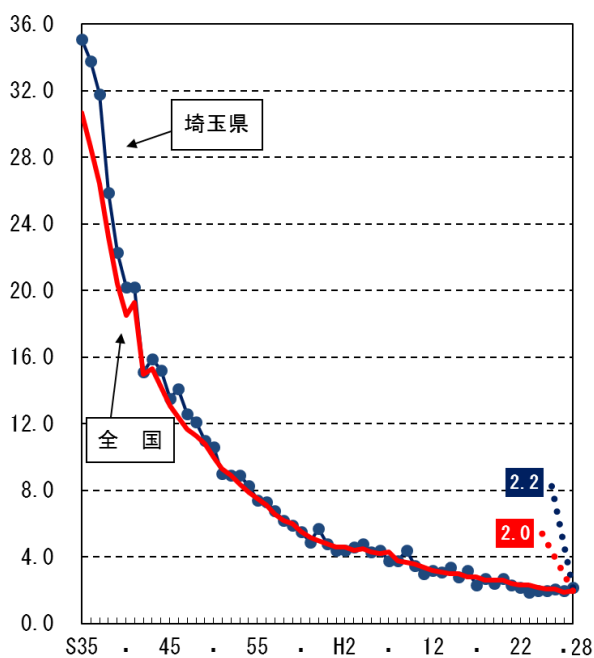
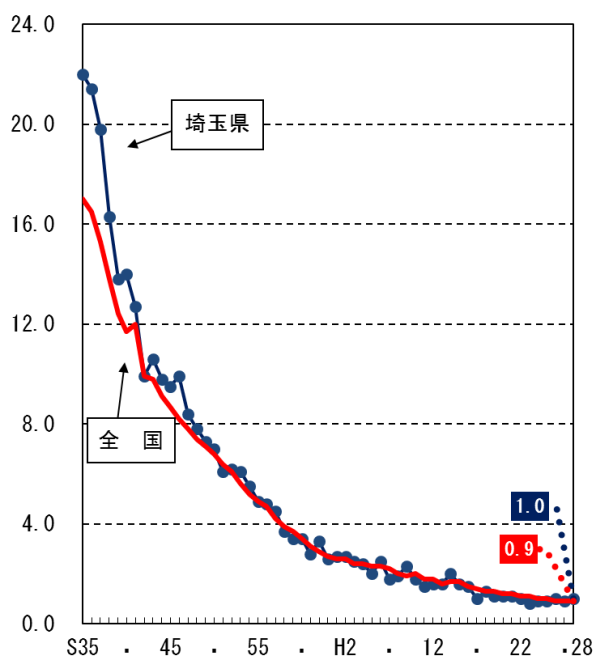


図-17 新生児死亡率の年次推移
(埼玉県・全国)



(4) 自然増減

自然増減数（出生数から死亡数を減じたもの）は△9,019人で、前年の△6,488人より2,531人減少し、平成24年に戦後初めて増加から減少に転じて以降、5年連続しての減少となった。

年次推移をみると、第2次ベビーブーム期の昭和46～49年には75,000人を超えていたがその後急激に減少し、平成15年に20,000人を、平成20年から10,000人を割っていた。

自然増減率は人口千人に対し△1.3で、前年より0.4ポイント低下した。全国は前年より0.3ポイント低下し△2.6であった。（表-22、図-18）

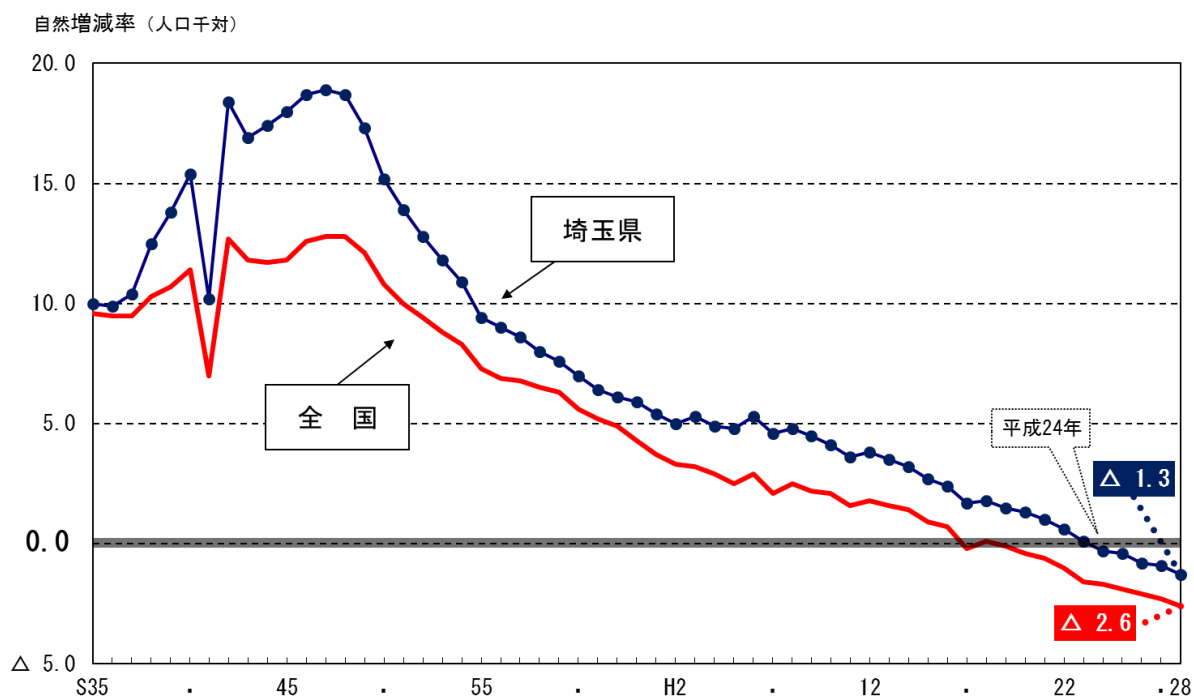
表-22 自然増減数及び自然増減率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2
数	埼玉県	24 332	46 468	69 277	73 345	50 961	40 843	32 077
	全国	899 442	1 123 259	1 221 277	1 199 165	854 088	679 294	401 280
率	埼玉県	10.0	15.4	18.0	15.2	9.4	7.0	5.0
	全国	9.6	11.4	11.8	10.8	7.3	5.6	3.3

		7	12	17	22	26	27	28
数	埼玉県	30 951	25 890	11 636	3 950	△ 5 504	△ 6 488	△ 9 019
	全国	264 925	228 894	△ 21 266	△ 125 708	△ 269 465	△ 284 767	△ 330 770
率	埼玉県	4.6	3.8	1.7	0.6	△ 0.8	△ 0.9	△ 1.3
	全国	2.1	1.8	△ 0.2	△ 1.0	△ 2.1	△ 2.3	△ 2.6

注：率は人口千対である。

図-18 自然増減率の年次推移（埼玉県・全国）



市町村別にみると、高率順では、和光市（5.2）、戸田市（4.9）、朝霞市（3.4）の順である。

また、低率順では、小鹿野町（△13.5）、長瀨町（△12.2）、皆野町（△11.9）の順である。

自然増減数・率がマイナスの市町村は、前年より4市増加して63市町村中50市町村であった。（表-23、図-19）

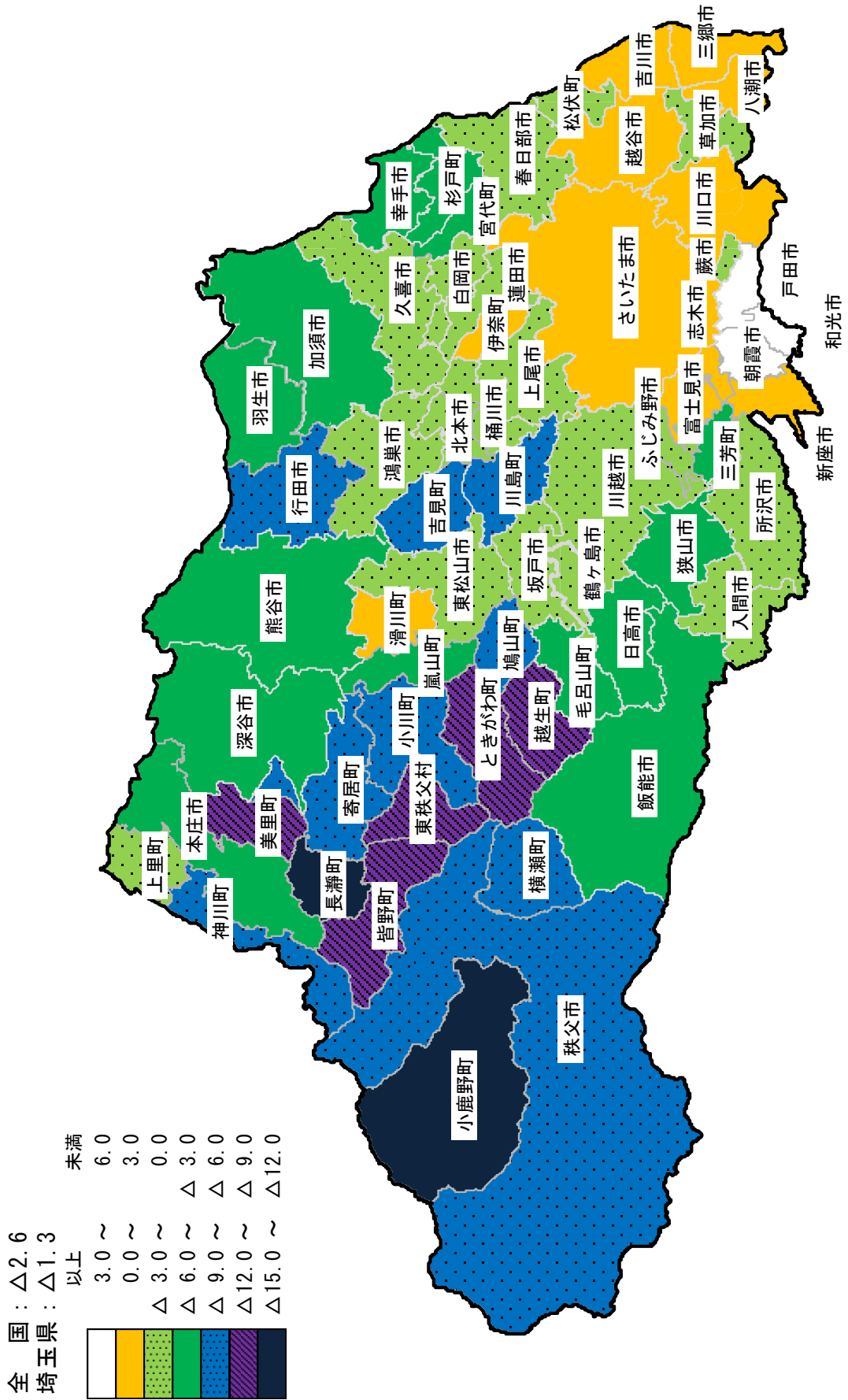
表-23 市町村別にみた自然増減率（高率順） 埼玉県

順位	市町村	自然増減率	順位	市町村	自然増減率	順位	市町村	自然増減率
1	和光市	5.2	22	東松山市	△ 1.4	43	本庄市	△ 4.8
2	戸田市	4.9	23	蕨市	△ 1.6	44	羽生市	△ 5.0
3	朝霞市	3.4	24	坂戸市	△ 1.7	45	幸手市	△ 5.5
4	吉川市	1.6	25	入間市	△ 2.1	46	毛呂山町	△ 5.6
5	滑川町	1.1	26	桶川市	△ 2.6	47	嵐山町	△ 5.7
6	志木市	0.7	27	北本市	△ 2.7	48	行田市	△ 6.1
7	三郷市	0.6	28	鴻巣市	△ 2.9	49	寄居町	△ 6.3
8	富士見市	0.3	29	上里町	△ 3.0	50	秩父市	△ 6.8
9	新座市	0.3	30	春日部市	△ 3.0	51	神川町	△ 7.5
10	越谷市	0.3	31	松伏町	△ 3.0	52	小川町	△ 7.7
11	さいたま市	0.3	32	蓮田市	△ 3.0	53	吉見町	△ 8.0
12	八潮市	0.2	33	久喜市	△ 3.0	54	鳩山町	△ 8.5
13	伊奈町	0.1	34	深谷市	△ 3.1	55	横瀬町	△ 8.5
14	川口市	△ 0.0	35	宮代町	△ 3.2	56	川島町	△ 8.9
15	白岡市	△ 0.3	36	狭山市	△ 3.2	57	東秩父村	△ 9.1
16	ふじみ野市	△ 0.5	37	三芳町	△ 3.4	58	越生町	△ 9.7
17	草加市	△ 0.7	38	熊谷市	△ 3.5	59	美里町	△ 10.8
18	川越市	△ 0.9	39	日高市	△ 4.1	60	ときがわ町	△ 11.4
19	所沢市	△ 1.0	40	加須市	△ 4.4	61	皆野町	△ 11.9
20	上尾市	△ 1.1	41	杉戸町	△ 4.7	62	長瀨町	△ 12.2
21	鶴ヶ島市	△ 1.3	42	飯能市	△ 4.7	63	小鹿野町	△ 13.5

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮している。

図-19 自然増減率(人口千対)―市町村別状況―



(5) 死産

死産数は1,181胎で、前年より169胎減少した。死産の内訳をみると、自然死産は前年より95胎減少し575胎、人工死産は前年より74胎減少し606胎であった。

死産率は出産千人（胎）に対し21.2で、前年より2.3ポイント低下した。全国は1.0ポイント低下し21.0である。（表-24、図-20、図-21）

表-24 死産数及び死産率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	26	27	28
死 産 数	埼玉県	3 794	4 237	4 277	3 795	2 792	2 630	2 324	1 944	1 907	1 637	1 375	1 382	1 350	1 181
	全国	179 281	161 617	135 095	101 862	77 446	69 009	53 892	39 403	38 393	31 818	26 560	23 524	22 617	20 934
死 産 率	埼玉県	80.4	59.8	44.8	38.0	35.8	37.6	35.4	27.9	27.9	26.7	22.6	24.2	23.5	21.2
	全国	100.4	81.4	65.3	50.8	46.8	46.0	42.3	32.1	31.2	29.1	24.2	22.9	22.0	21.0
(自然) 数	埼玉県	2 491	3 077	3 307	2 976	2 021	1 521	1 226	1 057	941	780	690	665	670	575
	全国	93 424	94 476	84 073	67 643	47 651	33 114	23 383	18 262	16 200	13 502	12 245	10 905	10 862	10 067
(自然) 率	埼玉県	52.8	43.4	34.7	29.8	25.9	21.8	18.7	15.2	13.8	12.7	11.3	11.6	11.7	10.3
	全国	52.3	47.6	40.6	33.8	28.8	22.1	18.3	14.9	13.2	12.3	11.2	10.6	10.6	10.1
(人工) 数	埼玉県	1 303	1 160	970	819	771	1 109	1 098	887	966	857	685	717	680	606
	全国	85 857	67 141	51 022	34 219	29 795	35 895	30 509	21 141	22 193	18 316	14 315	12 619	11 755	10 867
(人工) 率	埼玉県	27.6	16.4	10.2	8.2	9.9	15.9	16.7	12.7	14.1	14.0	11.3	12.5	11.8	10.9
	全国	48.1	33.8	24.7	17.1	18.0	23.9	23.9	17.2	18.1	16.7	13.0	12.3	11.4	10.9

注：率は出産（出生＋死産）千対である。

図-20 死産率の年次推移
（埼玉県・全国）

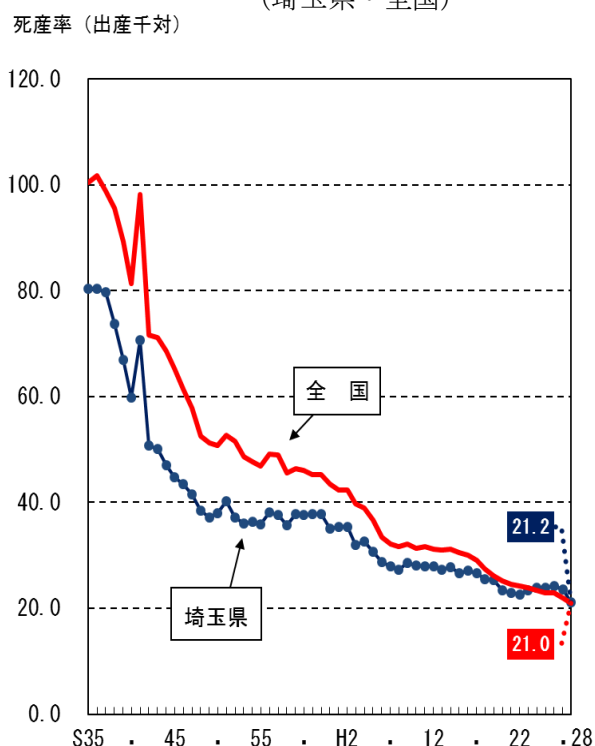
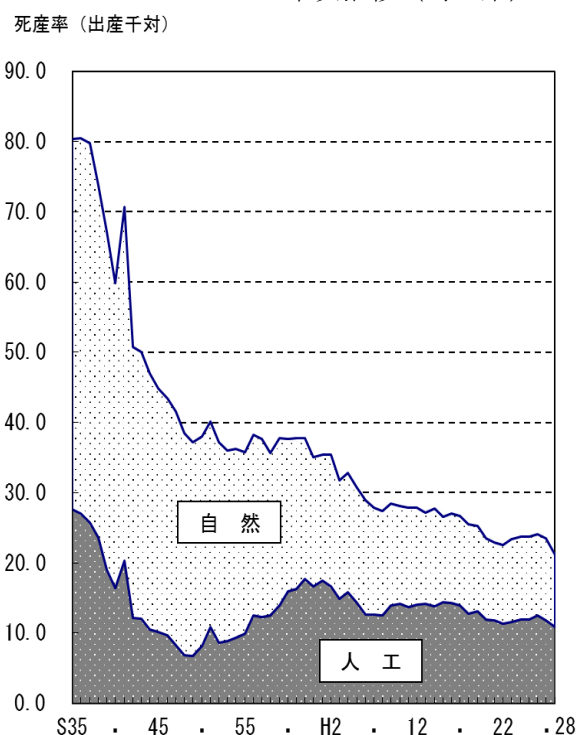


図-21 死産率（自然・人工）の
年次推移（埼玉県）



(6) 周産期死亡

周産期死亡数は185人（胎）で、前年より23人（胎）減少した。

周産期死亡率は出産千人（胎）に対し3.4で、前年より0.3ポイント低下し、全国（3.6）を0.2ポイント下回った。年次推移をみると、長期的に低下傾向にある。（表-25、図-22）

なお、平成7年の上昇は、周産期死亡の定義が変わり、後期死産が「妊娠満28週以後」から「妊娠満22週以後」に改められたことに原因があるものと考えられる。

表-25 周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	26	27	28
周産期死亡数	埼玉県	1 892	1 956	1 889	1 546	899	555	401	476	397	281	252	221	208	185
	全国	66 552	54 094	41 917	30 513	18 385	11 470	7 001	8 412	6 881	5 149	4 515	3 750	3 728	3 516
周産期死亡率	埼玉県	43.6	29.4	20.7	16.1	12.0	8.3	6.3	7.0	6.0	4.7	4.2	4.0	3.7	3.4
	全国	41.4	30.1	21.7	16.0	11.7	8.0	5.7	7.0	5.8	4.8	4.2	3.7	3.7	3.6
後期死産数	埼玉県	1 287	1 306	1 213	1 014	603	380	275	385	319	242	205	181	175	145
	全国	49 512	39 955	29 107	20 268	12 231	7 733	4 664	6 580	5 362	4 058	3 637	3 039	3 063	2 840
後期死産率	埼玉県	29.6	19.6	13.3	10.6	8.0	5.6	4.3	5.7	4.8	4.0	3.4	3.2	3.1	2.7
	全国	30.8	21.9	15.0	10.7	7.8	5.4	3.8	5.5	4.5	3.8	3.4	3.0	3.0	2.9
早期新生児死亡数	埼玉県	605	650	676	532	296	175	126	91	78	39	47	40	33	40
	全国	17 040	14 949	12 810	10 245	6 154	3 737	2 337	1 832	1 519	1 091	878	711	665	676
早期新生児死亡率	埼玉県	13.9	9.8	7.4	5.5	3.9	2.6	2.0	1.3	1.2	0.7	0.8	0.7	0.6	0.7
	全国	10.6	8.2	6.6	5.4	3.9	2.6	1.9	1.5	1.3	1.0	0.8	0.7	0.7	0.7

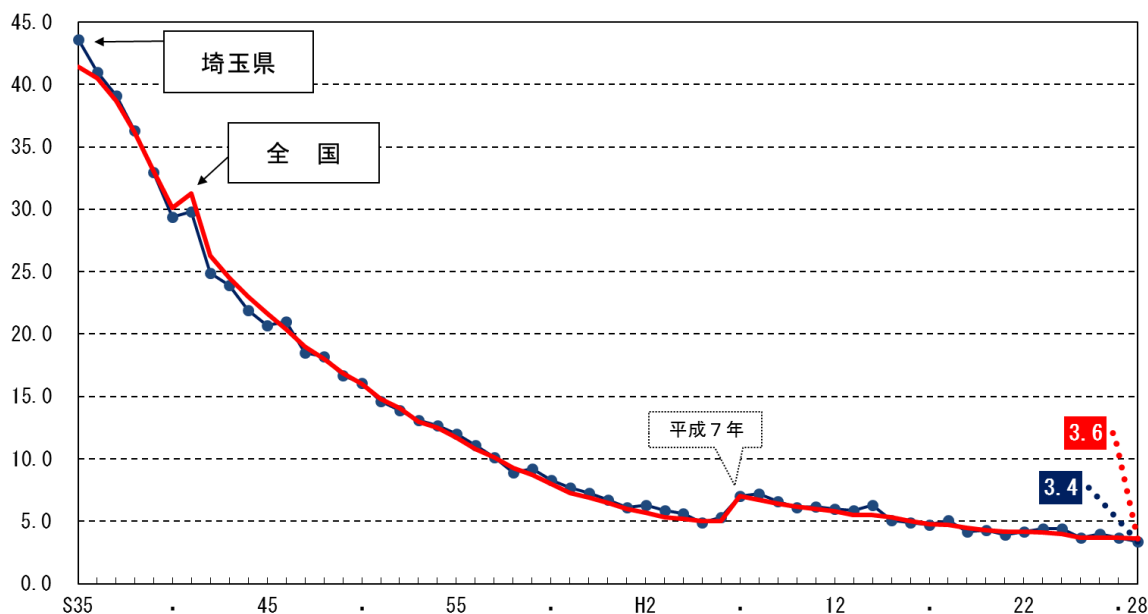
注1：周産期死亡率・後期死産率は出産（出生＋後期死産）千対である。

注2：早期新生児死亡率は出生千対である。

注3：後期死産とは、妊娠満22週以後の死産である。

図-22 周産期死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

周産期死亡率（出産千対）



(7) 婚姻

婚姻件数は34,199組で、前年より558組減少した。

婚姻率は人口千人に対し4.8で、前年より0.1ポイント低下した。全国は前年より0.1ポイント低下し5.0であった。（表-26）

婚姻率の年次推移をみると、昭和46年の11.7をピークに低下し、昭和62年（5.7）に上昇に転じたものの、平成5年を境として、総じて低下傾向にある。（図-23）

表-26 婚姻件数及び婚姻率の年次推移

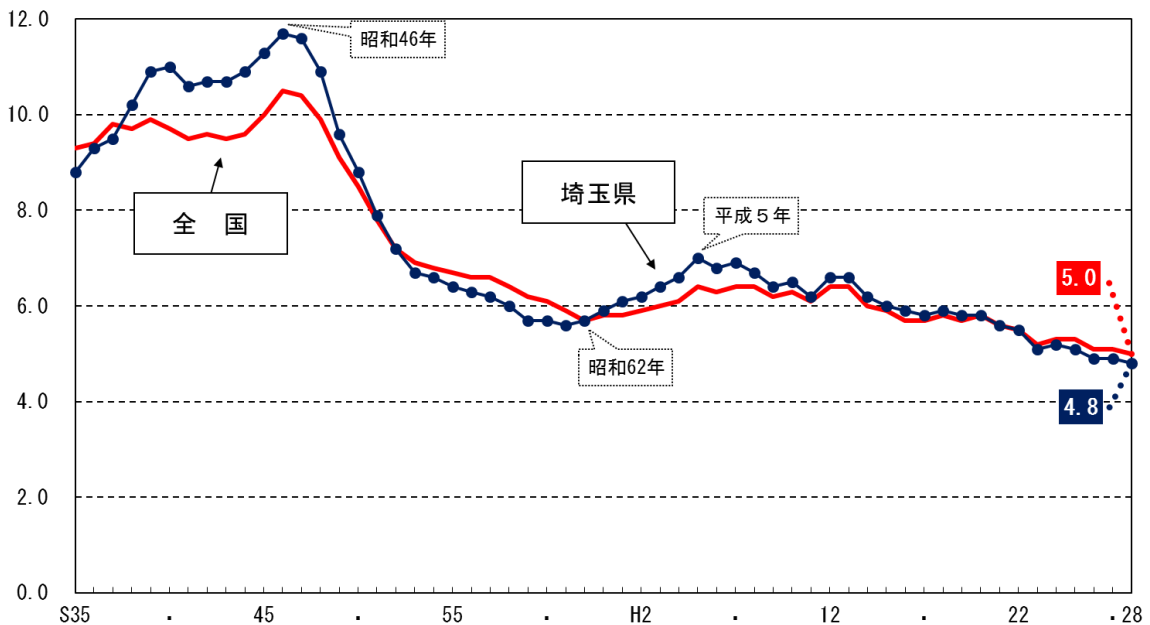
		S35	40	45	50	55	60	H2
数	埼玉県	21 485	33 131	43 517	42 340	34 708	33 446	39 234
	全国	866 115	954 852	1 029 405	941 628	744 702	735 850	722 138
率	埼玉県	8.8	11.0	11.3	8.8	6.4	5.7	6.2
	全国	9.3	9.7	10.0	8.5	6.7	6.1	5.9

		7	12	17	22	26	27	28
数	埼玉県	46 224	45 636	40 486	39 160	35 218	34 757	34 199
	全国	791 888	798 138	714 265	700 214	643 749	635 156	620 531
率	埼玉県	6.9	6.6	5.8	5.5	4.9	4.9	4.8
	全国	6.4	6.4	5.7	5.5	5.1	5.1	5.0

注：率は人口千対である。

図-23 婚姻率の年次推移（埼玉県・全国）

婚姻率（人口千対）



平均初婚年齢は、夫31.5歳、妻29.6歳で、前年と同年齢であった。全国も前年と変わらず、夫31.1歳、妻29.4歳であった。（表-27）

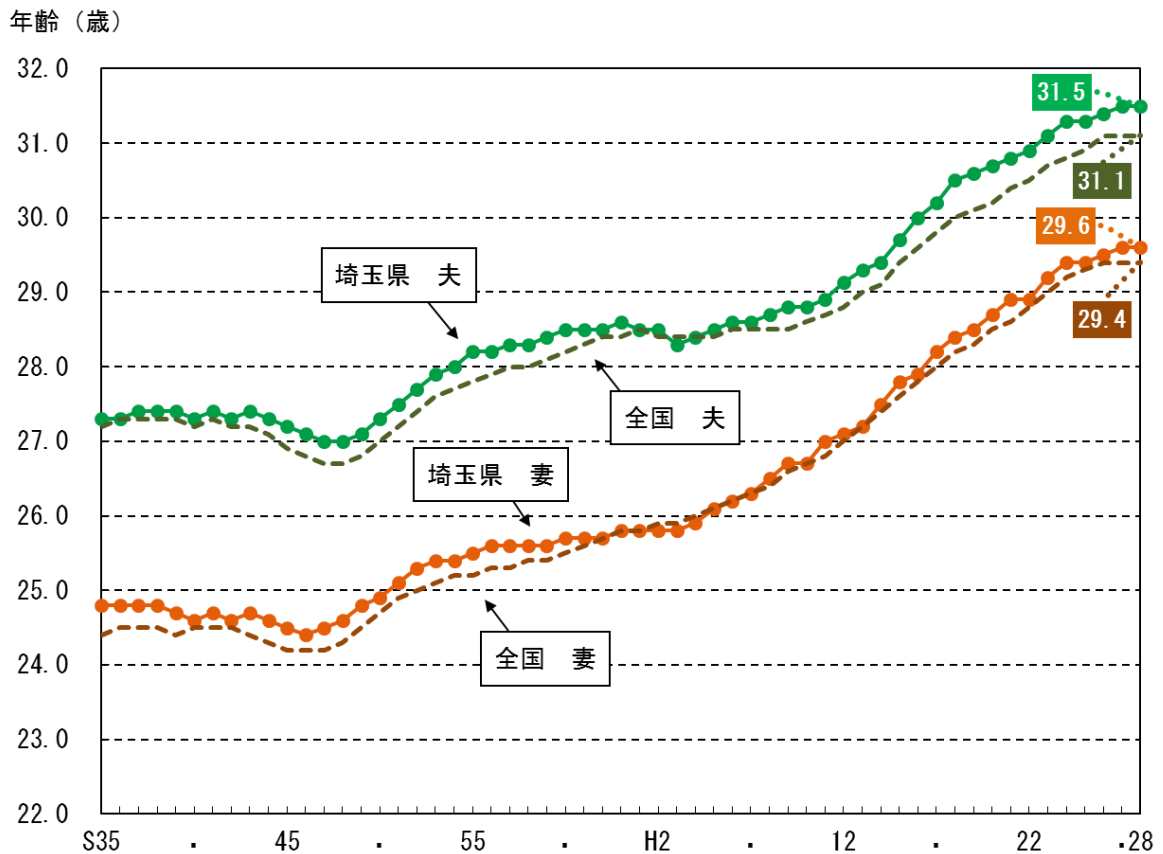
年次推移をみると、埼玉県、全国ともに上昇傾向にある。（図-24）

表-27 平均初婚年齢の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	26	27	28
夫	埼玉県	27.3	27.3	27.2	27.3	28.2	28.5	28.5	28.6	29.1	30.2	30.9	31.4	31.5	31.5
	全国	27.2	27.2	26.9	27.0	27.8	28.2	28.4	28.5	28.8	29.8	30.5	31.1	31.1	31.1
妻	埼玉県	24.8	24.6	24.5	24.9	25.5	25.7	25.8	26.3	27.1	28.2	28.9	29.5	29.6	29.6
	全国	24.4	24.5	24.2	24.7	25.2	25.5	25.9	26.3	27.0	28.0	28.8	29.4	29.4	29.4

注：各届出年に結婚生活に入ったものにより算出している。

図-24 平均初婚年齢の年次推移（埼玉県・全国）



(8) 離婚

離婚件数は12,481組で、前年より186組減少した。

離婚率は人口千人に対し1.74で、前年より0.03ポイント低下した。全国は前年より0.08ポイント低下し1.73であった。(表-28)

離婚率の年次推移をみると、昭和58年以降低下傾向にあったが、平成元年以降上昇に転じた。その後は平成13年をピークに低下傾向にある。平成27年に6年ぶりに上昇したものの、平成28年は再び低下した。(図-25)

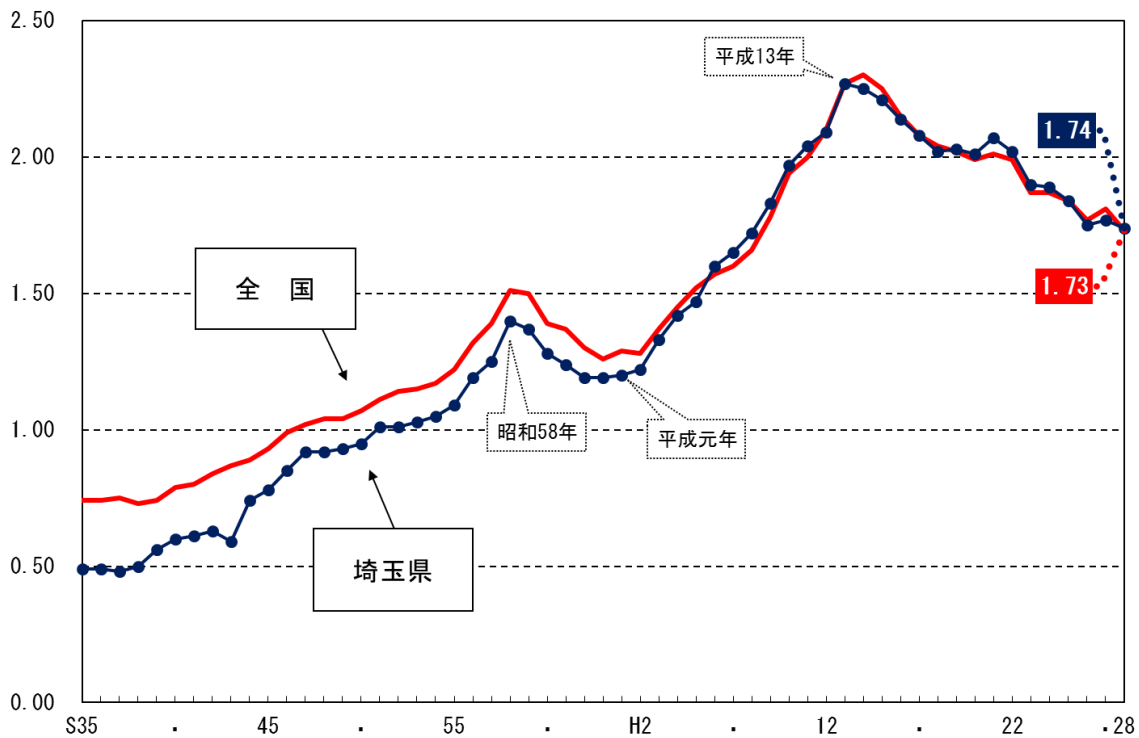
表-28 離婚件数及び離婚率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2
数	埼玉県	1 182	1 797	2 990	4 584	5 901	7 494	7 775
	全国	69 410	77 195	95 937	119 135	141 689	166 640	157 608
率	埼玉県	0.49	0.60	0.77	0.95	1.09	1.28	1.22
	全国	0.74	0.79	0.93	1.07	1.22	1.39	1.28
		7	12	17	22	26	27	28
数	埼玉県	11 062	14 368	14 521	14 325	12 484	12 667	12 481
	全国	199 016	264 246	261 917	251 378	222 107	226 215	216 798
率	埼玉県	1.65	2.09	2.08	2.02	1.75	1.77	1.74
	全国	1.60	2.10	2.08	1.99	1.77	1.81	1.73

注：率は人口千対である。

図-25 離婚率の年次推移（埼玉県・全国）

離婚率(人口千対)



(9) 合計特殊出生率

合計特殊出生率は1.37で、前年の1.39より0.02ポイント低下した。全国は前年より0.01ポイント低下し1.44であった。

母の年齢階級別に前年と比較すると、45～49歳を除いた全ての階級で低下した。出生率は30～34歳が最も高く、次いで25～29歳、35～39歳の順となっている。(表-29、図-26)

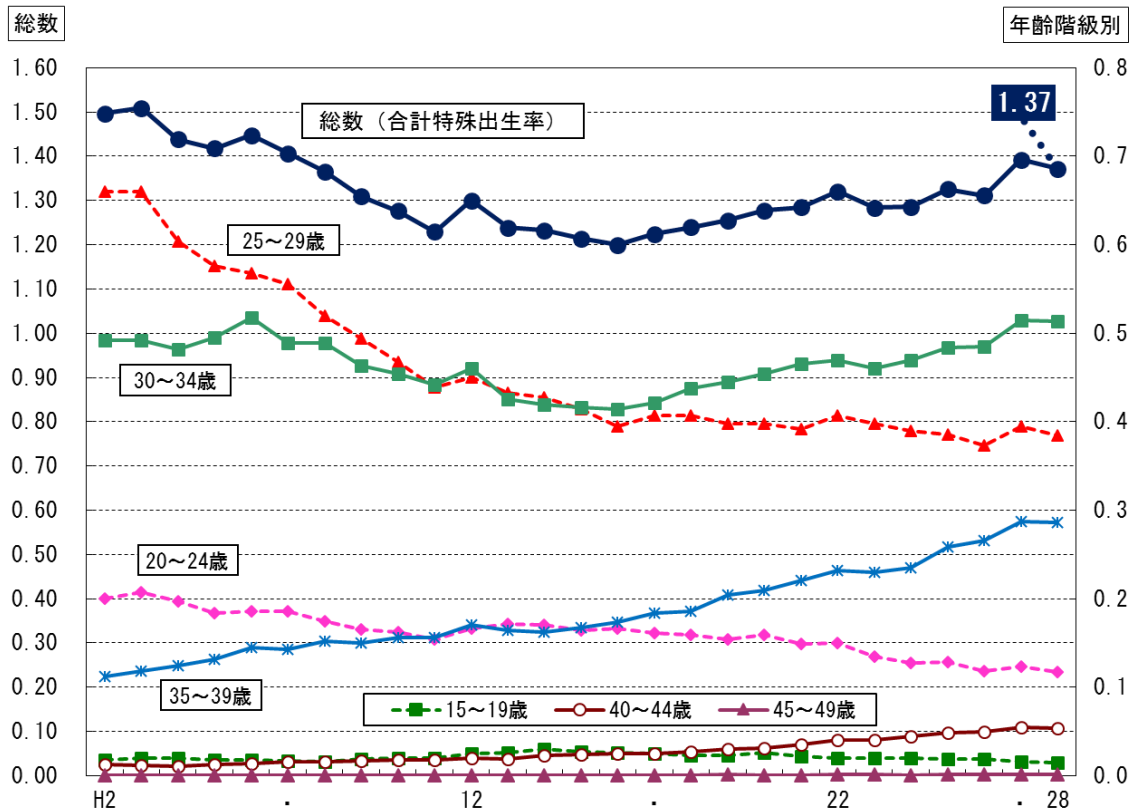
表-29 合計特殊出生率の年次推移（年齢階級別内訳）

		H2	7	12	17	22	23	24	25	26	27	28
埼玉県	総数 (合計特殊出生率)	1.50	1.41	1.30	1.22	1.32	1.28	1.29	1.33	1.31	1.39	1.37
	15～19歳	0.02	0.02	0.02	0.0255	0.0200	0.0198	0.0196	0.0184	0.0190	0.0158	0.0150
	20～24歳	0.20	0.19	0.17	0.1617	0.1504	0.1344	0.1273	0.1287	0.1186	0.1234	0.1173
	25～29歳	0.66	0.56	0.45	0.4071	0.4075	0.3981	0.3893	0.3851	0.3729	0.3945	0.3843
	30～34歳	0.49	0.49	0.46	0.4216	0.4693	0.4600	0.4693	0.4842	0.4848	0.5147	0.5140
	35～39歳	0.11	0.14	0.17	0.1835	0.2322	0.2298	0.2350	0.2587	0.2659	0.2871	0.2861
	40～44歳	0.01	0.02	0.02	0.0246	0.0404	0.0401	0.0440	0.0487	0.0491	0.0547	0.0536
	45～49歳	0.00	0.00	0.00	0.0007	0.0010	0.0010	0.0007	0.0011	0.0013	0.0014	0.0014
全国	総数 (合計特殊出生率)	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44

注1：数値は、5歳階級別の出生率を合計したものである。ただし、埼玉県の平成27年分と全国の数値は、各歳の年齢別出生率を合計したものである。

注2：算出に用いた出生数の15歳及び49歳にはそれぞれ14歳以下、50歳以上を含んでいる。

図-26 合計特殊出生率の年次推移（年齢階級別内訳）（埼玉県）



市町村別にみると、高率順では、滑川町（1.70）、横瀬町（1.64）、戸田市（1.48）の順である。

また、低率順では、鳩山町（0.73）、川島町（0.75）、小鹿野町（0.79）の順である。（表－30、図－27）

表－30 市町村別にみた合計特殊出生率（高率順）

埼玉県

順位	市町村	合計特殊出生率	順位	市町村	合計特殊出生率	順位	市町村	合計特殊出生率
1	滑川町	1.70	22	東松山市	1.29	43	羽生市	1.15
2	横瀬町	1.64	23	伊奈町	1.29	44	加須市	1.13
3	戸田市	1.48	24	熊谷市	1.28	45	鴻巣市	1.11
4	朝霞市	1.47	25	嵐山町	1.28	46	久喜市	1.11
5	志木市	1.44	26	宮代町	1.26	47	上里町	1.11
6	白岡市	1.39	27	坂戸市	1.25	48	北本市	1.10
7	三郷市	1.39	28	上尾市	1.25	49	飯能市	1.09
8	越谷市	1.38	29	川口市	1.25	50	蕨市	1.08
9	吉川市	1.38	30	皆野町	1.24	51	日高市	1.08
10	和光市	1.37	31	本庄市	1.23	52	長瀬町	1.07
11	神川町	1.36	32	草加市	1.23	53	行田市	1.06
12	ふじみ野市	1.35	33	所沢市	1.23	54	ときがわ町	1.01
13	松伏町	1.34	34	鶴ヶ島市	1.22	55	越生町	0.97
14	新座市	1.34	35	蓮田市	1.21	56	幸手市	0.97
15	秩父市	1.34	36	狭山市	1.21	57	小川町	0.95
16	さいたま市	1.33	37	桶川市	1.20	58	東秩父村	0.90
17	富士見市	1.33	38	入間市	1.19	59	毛呂山町	0.87
18	八潮市	1.33	39	美里町	1.19	60	吉見町	0.87
19	深谷市	1.32	40	杉戸町	1.17	61	小鹿野町	0.79
20	川越市	1.31	41	春日部市	1.17	62	川島町	0.75
21	寄居町	1.29	42	三芳町	1.15	63	鳩山町	0.73

注：順位の算出には、小数点第3位以下を考慮している。

図一27 合計特殊出生率—市町村別状況—

